

本物中の本物

研究者が、自己の方法論に基づいて、真摯に学問を展開し、業績を世に問い、批判に対しては誠実に対応し、機会があれば教育にも情熱をかけて従事している場合、それは本物である。

倉澤康一郎教授は、本物中の本物の研究者である。その志は高く、洗練された法学方法論を駆使し、学問の幅は広く、多数の業績を公表し、批判や論争にも賢く、建設的に対応し、優秀な後継者も育ており、教育能力も万全だからである。

倉澤康一郎教授の学問上の論理展開は、緻密で、矛盾がなく、隙もない。その展開があまりに精緻であるため、表面的な理解しか出来ない人は、同教授のことを「概念法学者」と評価する場合もある。しかし、それはまったくの誤解である。「概念法学」においては、現行制定法体系には欠陥がなく論理的自己完結性があることを前提として、形式的論理展開が見事なまでになされる。従っ

て、「概念法学」において、最上位概念が、何かの拍子に、時代迎合や権力迎合の雰囲気の中で、恣意的に決められ、客観性を具備するかのように振舞い始めると、誤った自立的自己完結的論理展開ゆえにとんでもない人間性無視、人権侵害の結末となる。人類は、歴史上、何でもこのような悲劇を経験してきた。

倉澤康一郎教授の法学方法論においては、最上位概念は、立法者の意思に忠実に従って設定され、時代迎合や権力迎合の可能性は排除される。立法者の意思、つまり、民の声により指導されるので、出発点において、「概念法学」とは、月とスッポンほど違うのである。ただ、ここで注意しなければいけないのは、民の声も思い違いをすることがあるので、それに気づいた人は、直ちにそれを指摘し、立法論を展開しなければならない。倉澤康一郎教授は、それが出来る研究者である。

運命の神様は、ひょっととして意地悪で、天邪鬼かもしれない。なにせ、選別して、本物中の本物から鬼籍へ招き入れるからである。

(平成二十三年八月三一日稿)

名誉教授 加藤 修

一言の重さ

人はみな人生の中で心から尊敬できる幾人かの先人・先輩・師を思い浮かべることができはるはずである。われわれのような仕事をしている者にとつては、そのことが学問的な意味での尊敬の対象であるということもあれば、人としての生き方・あり方が対象の場合もある。私にとつての倉澤先生は、まぎれもなくその両方の意味において追いつこうにも追いつくことのできない、尊敬・敬愛・追慕の対象の方であつたといつてよい。

学者としての倉澤先生の残された業績の輝きについては、今更あらためて述べるまでもない。晩年にいたるまでの学界における先生のご活躍ぶりをみれば、誰しも異論をはさむ者はいないはずである。紙幅の関係上本記事では触れることができないが、先生の学問のすごさ（という表現さえでしてしまう）の一端は先生の還暦記念論文集（『商法の判例と論理』（日本評論社、一九九四年））のあとがきに私が拙文を寄せているので、是非ご参照い

ただければ幸いである。

また、学者としての先生は、多くの弟子を残されている。先生の直接の教えを受けた弟子達が多くあるのは当然として、慶應義塾と関わりのない商法研究者の何人もが、倉澤先生の弟子である、あるいは倉澤門下であると言つてはばからない。自らも大家をなしておられるはずの早稲田大学元総長奥島孝康教授も、師弟関係の係累にうるさい早稲田大学におられながら、ことあるごとに自分は「倉澤先生の一弟子である」と公言されている。多くの研究者が先生の元に集まるのも、単に学問のすごさゆえではなく、人としての先生の生き様・カッコよさへの思慕があつたからに違いない。そして、押しかけ弟子であつてもすべてを喜んで迎え入れ、すべての者に等しく惜しげもなく学問の難しさと喜びをお示しくださったのは、先生の学問に向かう真摯な姿勢の表れであつたのであろう。

本来であれば直接の弟子筋ではない私も本当にかわいがつていただいた。先生が私のそばにおられなかったら、そしてあの一言がなかったら、今の私があつたとは到底思えない。かくも私にとって先生の存在は大きなもので

あったし、先生のたった一言がどれだけ私に重いものであったか。

「せっかく留学から帰ってきたことだし、デビューの場でもあるんだから、無難にフランスの企業結合法を演題にしておいた方がいいんじゃないの?」「慶應の金看板背負っているんだから。今の報告とても面白いんだけど、誰も言ったことのないそんなこと発表して袋叩きにあつたら困るからね。フランスの企業結合法についてなら、留学から帰ってきたばかりで情報もたくさん持っているし、君が一番詳しいんだから、それにしておきなさい。」忘れもしない昭和五八年六月の慶應での商法研究会の後のことである。一〇月に予定されている私の学会報告の予行演習のために開催してもらった研究会の後、何人かの指導教授にあたる先生方から呼び出されて伺った言葉である。とても悔しかった。その時までの渾身の努力を、そして学会へのあるいはそれまでのその分野の学問への挑戦を否定されてしまったようで。何のための学会なんだろうと。でもデビューの場でもあると言われてみると、確かに傷ついたまま飛び立っていく危険（もしか

したら飛び立つことさえできなくなってしまうかもしれない危険）を慮ってくださる先生方のお気持ちも分らないではなかった。本当に常日ごろからそのような優しい先生方もあるし、自分も弟子にはそのような助言を与えてしまうかもしれないからである。不承不承「はい、分かりました」と言いながら、心の中では悔しくて仕方なかった。悔しさのあまり、確かその足でだったと思う。当時は直接の指導教授ではなかったけれど、倉澤先生の研究室に向かった。後に、酔った席になると必ず先生がおっしゃられるのは、「泣きながら俺のところへ来て、お前は『あれで報告をやらせてください』と言った」とのこと。ものすごい形相だったかもしれないけれど、決して泣いてはいなかったはずである。倉澤先生がだめというようなものなら、あきらめるしかないと思っただけだ。その覚悟でお目にかかりにいったのである。

先生のたった一言、「お前、壇上で死んで来い」。ただだうれしかった。

商法の巨頭とも言われていた田中誠二先生のその学会

の場での一言、「宮島君。僕は君の考えに反対だね」。ただただうれしかった。反対ではあるにせよ、あの大先生が一つの考え方として相手にしてくださった。一つの世界をきわめた一流の人物の、たった「一言」ほんの「一言」の重さ。自分自身に身を置いて考えた時に、自分がこのように与えていたのだいたいのと同様の喜びや感動を、例えば弟子や学生に与えることができるか、情けないことにはなはだ自信がない。

法学部教授 宮 島 司

倉澤康一郎先生

私が学部生の頃、先生は女子学生に大変な人気があった。まだ五十前、しかし当時の流行語でいうとロマンスグレーで、その御髪を無造作に掻き上げ、慎重にかつ力強く講義を進められた。六法をお読みになるとき、少し恥ずかしそうに、眼鏡をかける言い訳をなされるのも、やんちゃな感じで、親しみやすく格好良い学者らしい教授であられた。

木曜日の夜はつるの屋でゼミの学生と楽しそうにお酒を召された。私も高鳥先生のゼミの仲間と木曜日の夜はつるの屋の暖簾をよくぐつていた。倉澤ゼミの友人と騒いでいると、お声をかけてくださり、樹水のロックを飲ませていただいた。樹水に味がないのは混ぜものがないからで、そこが良いのだとまた楽しそうに笑われた。先生のお傍にいますと、ついつい法律関係のお話を聞きたくなる。「君は何も分かっている。もっと勉強してから来い。」と叱られるのであるが、それがまた気持ち良い。

もつとも、酔っているときのこと、酔いが醒めると先生に札を失さなかったかと心配するのであるが、先生は愉快そうであつたと聞くと、性懲りもなくつるの屋でまた先生のお話を聞きに（いや樹水を飲み）挨拶をしに行った。

大学院に進学すると、合同演習や商法研究会でご指導を受けた。先生は学生だからといって手加減されない。商法研究会の先輩方は、倉澤先生は昔はもっと厳しかったと一様におっしゃる。優しくなられたからかもしれないが、怖いとは感じなかった。先生は本質的に情の人だと思う。酒席でも規範の話がされるが、お説教ではない。津田先生や高鳥先生のお話をされるときには温かみを感じた。

塾百五十年記念で、先生は『法概念』のための、『概念法学』との闘い」と題される講演をされた。三田商法学の真髄と先輩諸先生の闘いぶりについてであった。物事の本質を論理的に解き明かす法解釈学を概念法学と呼ぶのであれば、それは法解釈の基本である。ドグマと呼ばれるような排他的な解釈に陥るとき、批判的な意味で概念法学という言葉が用いられる。酒席ではあるが、倉

澤先生は、ご自身の解釈が概念法学であると批判される
ことがあるが、それじゃあ概念法学をしてみろ、概念法
学すらできないではないか、との趣旨のお話をよくされ
ていた。物事の本質を把握しようとせず論理的であるこ
とを批判するようでは法律学は減じるのである。二十年
近く前になるが、私の私法学会での報告について、「す
ごい概念法学でしたね」と倉澤先生に感想を耳打ちした
方がいらしたようである。先生はともうれしそうな顔
をされて、概念法学という言葉は批判的に用いられるこ
とが多いが、肯定的に概念法学だとほめられたぞ、と私
に話してくださった。私も三田商法学の末席に連なる資
格があると認めていただいたのである。

先生が法学部長に就任されてまもなく、通信教育部の
機関誌「三色旗」の企画「法学部長に聴く」で聞き手を
務めさせていただいた。先生には様々な事柄につきお教
えいただいたことが、さらに、なお、また、お教えいた
だきたことが山ほどあった。そこで、私自身が先生に
お教えいただきたいことを中心にお聞きしたように思う。
終了後、先生から上手なインタビューだったとほめてい
ただいた。先生の教えを正しく理解していると認めてい

ただいたよううれしかった。

先生の論文集『株式会社監査機構のあり方』をまとめ
ることができたのも幸せであった。先生の監査役関連の
ご論考でこれまでの論文集に登載されていないものを集
め、慶應法学会や出版社と交渉し、鈴木千佳子君、杉田
貴洋君、島田志帆君と分担し合って、新会社法の条文と
の関係を各ご論考の補訂とした。先生の監査役論を勉強
し直す機会となったことはもちろんであるが、先生に喜
んでいただけことが何よりであった。学恩に少しでも
報いられたであろうか。

慶應義塾の手作りの教育環境の中で、先生から様々な
お教えを受けた。直接先生のお言葉を賜りたい想いはな
お強い。奥さまから先生ご逝去のお電話をいただいた日
の夜、長い長い夢を見た。先生とお話ししていたようで、
一晩中つぶやいていたらしい。お亡くなりになる半月程
前に、三田で、あいさつ程度であったが少しお話す機
会があった。いつものように穏やかで優しい笑顔であら
れた。先生、手酌で一杯やりながらまたお話を聞かせ
てください。

法学部教授 山 本 爲三郎

倉澤康一郎先生の思い出

目をつぶると最初に浮かんでくる倉澤先生のお姿、それは、すらりとした長身で三田のキャンパスを悠然と歩いて行かれる先生です。最後にお会いした時も、先生は現役時代と変わらず若々しく、私はいつまでもこのまま私たちのそばにいてくださると信じて疑いませんでした。今も悲しく残念な気持ちでいっぱいですが、先生への憧憬とお礼の気持ちを込めて、先生との思い出を書きたいと思います。

先生と初めてお目にかかったきっかけについて書くためには、私の父、鈴木竹雄のことを書かなくてはなりません。私の父は、東京大学教授でやはり商法の学者でした。その父が、当時主流であった会社法の改正の検討だけでなく商法の他の分野についての検討も必要であると考えて、保険法を研究されている先生方と呼び掛けて保険法の研究会を立ち上げましたが、その中に、倉澤先生も参加していました。研究会は、当時の東京

海上の寮で毎年七月に二泊の泊まり込みで行われていましたが、それは、父が散歩の途中自宅のそばに寮があることを知って、東京海上の担当者に頼み込んで使わせてもらっていたところでした。そのため私は、母と小学校の低学年のころから毎年のように寮にお邪魔しておりました。私のはつきりとした記憶は中学生の時くらいからですが、おそらく、倉澤先生は私を小学生時代からご存じであったと思います。幼稚園から慶應で過ごしていた私は、「慶應ボーイ」という言葉を身近に思っていましたので、「さすが慶應には素敵な先生がいらつしやるものだなあ」と憧れの目で拝見しておりましたが、いつも先生は幼い私に、にこにこしながらやさしく話しかけてくださいました。それが、私と先生との出会いでした。そして、私はその後大学で法学部法律学科に入り、法律を勉強し始めた時、あらためて学者としての先生を知ることになりました。先生の授業は、手形法、保険法、そしてフランス法に至るまで、履修可能なものはすべて履修させていただきました。先生が父に対する遠慮からか、「僕の授業はとらないでね」と片目をつぶって、茶目つけたっぷりにおっしゃったにも関わらず。それほど、

先生の授業は素晴らしく、新鮮な魅力がありました。

また、大学院に進んで受講をした合同演習では、いつも先生は学生の報告が終わると真つ先到的確な質問をされました。その明晰さと頭の回転の速さにもいつも驚き、今度はどのような質問を先生からしていただけののかと楽しみにになりました。「鈴木君、とにかく質問が出たら、まず、よくそれを聞くこと。」「報告をするときには、質問を受けても自分の主張に自信を持つてきちんと答えること、僕たちの質問はたんなる思いつきに過ぎないんだから。」など、とかく自らの知識の少なさや才能の乏しさに自信を失いがちな私にかけていただいたお言葉が、その後も折々で思い出され、私を支えてきたと思います。また、私の父が亡くなったとき、先生からお手紙をいただき、先生は、父との思い出と感謝、そして、父がいなくなった今、自分もできるだけ力になりたいということを書いてくださいました。その時には、本当に、先生のお優しさが心に染みました。とにかく、私を幼少の時からご存じだった先生は、いつも子供を見るような眼で私に接してくださったと思っています。

先生の突然の訃報に接し、なにがなんだかわからない

ままに夢のような気持ちで葬儀に参加し、先生をお見送りした帰り道、先生の盟友である早稲田大学の奥島孝康先生が弔辞の中でおっしゃっていた、「法律が面白くてたまらないよ」という倉澤先生の口癖について思いを馳せながら、涙が止まりませんでした。私はまだ、法律が楽しくてならないといえるほどの域には達しておらず、むしろ厳しく大変なことばかりが意識されている迷いの途中にあります。そんな素晴らしい研究者でいらした先生から、もつともつと多くのことを学びたかったという残念な気持ちでいっぱいになりました。しかし、思い返しますと、私には、このように先生とのたくさん思い出と、学ぶべき研究者としての先生のご業績が残されています。これからはこれらを支えにして、研究にも精進してまいりたいと思っています。論文を書くたび、報告をするたび、先生ならどのような質問をしてくださるかを考えてゆきたいと思っています。

天国の先生に、書いても書き足りないほどの感謝の気持ちを、ここからお伝えしたいと思っています。

先生、本当にありがとうございました。

法学部教授 鈴木 千佳子

倉澤康一郎先生 略歴

昭和七年二月九日	山梨県南都留郡河口湖町にて出生	昭和四三年 一月	フランス留学（昭和四四年四月まで）
昭和二八年 三月	東京都立立川高等学校卒業		
昭和二九年 四月	慶應義塾大学法学部法律学科入学	昭和四七年 四月	慶應義塾大学教授（法学部）
昭和三三年 三月	同卒業	昭和四八年 四月	慶應義塾大学大学院法学研究科委員
昭和三三年 四月	慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程入学	昭和五一年一〇月	法務省法制審議会商法部会幹事・委員（平成一四年一月まで）
	手塚豊教授の下で日本法制史を研究	昭和五一年一二月	「保険契約の法理」により法学博士（慶應義塾大学）を受ける
昭和三五年 三月	同修了、修士論文「明治初期不法行為法制の一考察」	昭和五二年一〇月	日本私法学会理事（平成八年九月まで）
昭和三五年 四月	慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程入学、同大学法学部副手、島谷英郎教授の下で商法の研究を開始	昭和五三年 四月	公認会計士第二次試験委員（昭和五八年三月まで）
昭和三七年 四月	慶應義塾大学助手（法学部）	昭和五四年 四月	早稲田大学法学部講師、同大学大学院法学研究科講師（平成八年三月まで）
昭和三八年 三月	慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学		
昭和四〇年 四月	慶應義塾大学専任講師（法学部）	昭和五四年一〇月	日本保険学会理事（平成八年九月まで）
昭和四二年 四月	慶應義塾大学助教（法学部）		

昭和六〇年一〇月	フランス留学 (昭和六一年三月まで)	平成 九年 三月	一五年一二月まで)
昭和六一年一〇月	慶應義塾大学教職課程センター所長 (平成二年九月まで)	平成 九年 四月	慶應義塾大学を定年により退職 慶應義塾大学名誉教授
昭和六三年 四月	大蔵省企業会計審議会委員 (平成八年四月まで)	平成 九年 四月	慶應義塾大学法学部講師 (非常勤) (平成一七年三月まで)
平成 三年 一月	慶應義塾図書館長 (平成五年九月まで)	平成 九年 七月	武蔵工業大学環境情報学部教授 (平成一四年三月まで)
平成 四年 一月	慶應義塾大学研究・教育情報センター所長、同大学三田情報センター所長 (平成五年三月まで)	平成一〇年 七月	大蔵省金融審議会委員・同第二部長 (平成一五年六月まで)
平成 五年 四月	通産省産業構造審議会臨時委員 (平成六年一月まで)	平成一一年 四月	大蔵省金融監督庁自賠責保険審議会委員・同会長 (平成一九年一二月まで)
平成 五年一〇月	慶應義塾大学三田メディアセンター長 (平成五年九月まで)	平成一四年 四月	財団法人自賠責保険・共済紛争処理機構理事長 (逝去まで)
平成 六年 一月	慶應義塾大学法学部長、同大学大学院法学研究科委員長 (平成七年九月まで)	平成二二年一〇月一三日	その他、日本海法学会理事、武蔵工業大学環境情報学部、日本大学および桐蔭横浜大学法科大学院講師等を歴任
平成 六年 一月	大蔵省保険審議会委員 (平成一〇年六月まで)	逝去	
司法試験第二次試験審査委員 (平成			

倉澤康一郎先生 著作目録

一 著 書

- 『香港の会社法』（経済協力調査資料一三号）
 アジア経済研究所 昭和四六年
- 『保険法六講』 損害保険事業研究所 昭和四六年
- 『保険契約の法理』 慶應通信 昭和五〇年
- 『保険契約法の現代的課題』 成文堂 昭和五三年
- 『会社法の論理』 中央経済社 昭和五四年
- 『手形法の判例と論理』 成文堂 昭和五六年
- 『保険法通論』 三嶺書房 昭和五七年
- 『イラスト六法 保険と年金』 暁教育図書 昭和六〇年
- 『現代保険法論』 一粒社 昭和六〇年
- 『商法の基礎』 税務経理協会 昭和六〇年
- 『プレップ法と法学』 弘文堂 昭和六一年
- 『会社判例の基礎——リーディング・ケースによる会
 社法入門』 日本評論社 昭和六三年
- 『手形判例の基礎——リーディング・ケースによる手

形法入門』

日本評論社 平成二年

『損害保険事業の発展と保険法』（講演）

安田火災記念財団叢書三三三号 平成二年

『煉瓦の塔から』

三嶺書房 平成三年

『商法の基礎（改訂版）』

税務経理協会 平成四年

『商法の基礎（三訂版）』

税務経理協会 平成五年

『会社法改正の論理』

成文堂 平成六年

『保険法通論』（復刻版）

新青出版 平成一六年

『株式会社監査機構のあり方』

慶應義塾大学出版会 平成一九年

二 編著・共著書

- 『法学新講』（慶應義塾大学法学教育研究会編）
 慶應通信 昭和四二年
- 『フランツ・ノイマン 政治権力と人間の自由』（内山
 秀夫氏ほかとの共訳） 河出書房新社 昭和四六年
- 『新種・自動車保険講座Ⅰ～Ⅳ』（金澤理・西島梅治の

各氏と共編著)

日本評論社 昭和五〇年～五一

雄三・木内宜彦の各氏と共著)

弘文堂 昭和五八年

『手形・小切手の法律入門』(田村諄之輔・前田重行・

大塚龍児の各氏と共著)

『口語商法(全訂版) 三日間でわかる商法総解説付』
(監修) 自由国民社 昭和五八年

有斐閣 昭和五二年(新版・平成五年)

『口語商法(全訂版) 一九八四年改訂版』

『注釈手形法・小切手法』(有斐閣新書)(斎藤武・田

自由国民社 昭和五九年

邊光政・木内宜彦の各氏と共著) 有斐閣 昭和五三年

『分析と展開商法Ⅱ(手形・小切手法)』(岩崎稜・田

『シンボジウム手形・小切手法』(木内宜彦・庄子良

邊光政・奥島孝康・木内宜彦・庄子良男の各氏と共

男・高窪利一・田邊光政の各氏と共著)

著) 弘文堂 昭和六〇年

青林書院 昭和五四年

『口語商法(全訂版)』(大住達雄氏と共同監修)

『テキストブック会社法』(酒巻俊雄・柿崎栄治・戸塚

自由国民社 昭和六〇年

登・堀口亘・田村諄之輔の各氏と共著)

『手形法・小切手法一〇〇講』(編著)

有斐閣 昭和五五年(第二版・昭和五七年、第三版・

学陽書房 昭和六一年

平成四年、第四版・平成七年、第五版・平成一〇年)

『分析と展開商法Ⅰ(会社法)』(岩崎稜・奥島孝康・

『考える手形・小切手法』(岩崎稜・田邊光政・奥島孝

新山雄三・木内宜彦・森田章の各氏との共著)

康・木内宜彦・川村正幸の各氏と共著)

弘文堂 昭和六二年

『保険(生活の法律相談シリーズ)』(編著) 弘文堂 昭和五六年

『保険(生活の法律相談シリーズ) 改訂版』(編著)

法学書院 昭和五六年

『口語商法(増補版)』(大住達雄氏と共同監修)

『口語商法(全訂版)』(大住達雄氏と共同監修)

自由国民社 平成二年

自由国民社 昭和五七年

『改正商法の解説・実務』(大谷禎男・相澤哲・窪内義

『考える会社法』(岩崎稜・奥島孝康・渋谷光子・新山

正・松崎昇・藤野信雄氏と共著)

- 税務経理協会 平成三年
- 『口語商法（全訂版）』（監修） 自由国民社 平成三年
- 『基礎演習商法』（奥島孝康氏と共著） 有斐閣 平成四年
- 『鈴木辰紀教授還暦記念論文集・保険の現代的課題』（共編著） 成文堂 平成五年
- 『商法キーワード』（奥島孝康氏と共編著） 有斐閣 平成五年
- 『口語商法（全訂版）』（監修） 自由国民社 平成五年
- 『口語商法（改訂版）』（監修） 自由国民社 平成六年
- 『口語商法（改訂版）』（監修） 自由国民社 平成七年
- 『判例ハンドブック（商法総則・会社法）』（奥島孝康氏と共編著） 日本評論社 平成八年
- 『岩崎稜教授追悼論文集・昭和商法学史』（奥島孝康氏と共編著） 日本評論社 平成八年
- 『口語商法（改訂増補版）』（監修） 自由国民社 平成八年
- 『口語商法（増補新版）』（監修） 自由国民社 平成九年
- 『判例ハンドブック（商行為法・手形法）』（奥島孝康氏と共編著） 日本評論社 平成九年
- 『口語商法（改訂新版）』（監修） 自由国民社 平成一〇年
- 『口語商法（改訂増補版）』（監修） 自由国民社 平成一一年
- 『現代手形法小切手法講座第二巻』（河本一郎・高窪利一・小橋一郎の各氏と共編著） 成文堂 平成一二年
- 『口語商法（改訂版）』（監修） 自由国民社 平成一二年
- 『口語商法（改訂新版）』（監修） 自由国民社 平成一三年
- 『口語商法（全訂版）』（監修） 自由国民社 平成一四年
- 『口語商法（補訂版）』（監修） 自由国民社 平成一六年
- 『口語商法（補訂二版）』（監修） 自由国民社 平成一七年
- 『口語商法・会社法（補訂三版）』（監修） 自由国民社 平成一九年
- 『シンボジウム手形・小切手法（復刻版）』（木内宜彦・庄子良男・高窪利一・田邊光政の各氏と共著） 新青出版 平成一九年
- 『判例講義会社法』（奥島孝康氏、森淳二朗氏と共編著） 悠々社 平成二〇年

三 論説・判例評釈・解説・講演、座談会など

昭和三六年

判例共同研究〔研究会〕

綜合法学三〇号

取締役の第三者に対する責任に関する事例〔判批〕

法学研究三四卷三号〔商判Ⅰ〕

代表取締役が支払の見込みが極めて薄いのに拘らず約

束手形を振出した場合の第三者に対する責任〔判
批〕 法学研究三四卷七号〔商判Ⅰ〕

鈴木竹雄編「株式実務（新版）Ⅰ定款」〔書評〕

鮫島真男著「実用株式会社Ⅰ」〔書評〕

法学研究三四卷八号

拾得株券と株式〔判批〕

法学研究三四卷一二号〔商判Ⅰ〕

昭和三七

荷受人以外の第三者に運送品を引渡しした運送取扱人の

責任〔判批〕

財政経済弘報九二九号

被保証手形の支払に基く人的抗弁〔判批〕

法学研究三五卷五号〔商判Ⅰ〕・『手形法の判例と論
理』所収

約束手形の取得につき「害意」があると認められた事

例

金融・商事判例五五号

主たる債務者が貸金債務担保の目的で振り出す手形に
その事情を知って保証のため裏書した者は民法上の
保証債権をも負担するか〔判批〕

財政経済弘報九四七号

手形所持人の対価取得による手形金債権喪失〔判批〕

財政経済弘報一〇一〇号

有田喜十郎著「倉庫証券法の実証的研究」〔書評〕

法学研究三五卷一〇号

昭和三八年

手形振出についての復代理人が、権限を超えて直接代

理人名義で手形を振出した場合〔判批〕

法学研究三六卷一号〔商判Ⅰ〕・『手形法の判例と論
理』所収

火災保険普通保険約款二条二項の意義について

法学研究三六卷七号・『保険契約の法理』所収

単に人的抗弁を切断する目的でされた約束手形の裏書

譲渡の効力〔判批〕

法学研究三六卷八号〔商判Ⅰ〕

有価証券運送保険の被保険利益 綜合法学六卷一〇号

昭和三九年

約束手形上になした支払拒絶宣言の効力〔判批〕

法学研究三七卷二号〔商判Ⅰ〕・『手形法の判例と論理』所収

浦田一晴著「責任保険法論」〔書評〕

法学研究三七卷三号

「見せ金」による株金払込の効力及び共通の代表取締役を有する会社間の取引〔判批〕

法学研究三七卷九号〔商判Ⅰ〕

委付による保険金支払の損害填補性——株券郵送事故損害をカバーするための保険契約の提唱を契機として——

法学研究三七卷一〇号・『保険契約の法理』所収

昭和四〇年

小橋二郎著「手形行為論」〔書評〕 法学研究三八卷二号
増資の際の「見せ金」による払込とそれに対応する払込金領収証の効力〔判批〕

法学研究三八卷四号〔商判Ⅰ〕

取締役の監視義務について

企業法研究一二二輯・『会社法の論理』所収
被保険利益の契約法的機能——譲渡担保権設定者の被保険利益を契機として——

法学研究三八卷九号・『保険契約の法理』所収

発起人の損害賠償責任について

法学研究三八卷一二号・『会社法の論理』所収

未補充白地手形と時効の問題をめぐって

手形研究九号・『手形法の判例と論理』所収

昭和四一年

一、代表取締役職務代行者が招集した臨時社員総会における決議の効力

二、職務執行停止仮処分中に代表取締役がなした代表行為は後に仮処分が取消された場合に遡って有効となるか（石川明氏と共著）〔判批〕

法学研究三九卷四号

隠れた質入裏書の被担保債権の消滅と手形所持人の権

利行使〔判批〕 法学研究三九卷五号〔商判Ⅰ〕

株券の効力発生時期をめぐる判例と保険のあり方

商事法務研究三八七号・『会社法の論理』所収

手形の無因性と人的抗弁

手形研究一〇九号・『手形法の判例と論理』所収

質問表の効力〔判批〕

保険料不払による失効と過失の要否〔判批〕
別冊ジュリスト11 保険判例百選・『保険契約法の現代
的課題』所収

裏書の訂正と権利移転の有無ならびに支払呈示期間経過後に支払場所になした呈示の効力〔判批〕

法学研究三九卷一一号〔商判Ⅰ〕

昭和四二年

被保険利益と権利

保険学雑誌四三七号・『保険契約の法理』所収

銀行支店の統合と支払場所

手形研究一一九号

取締役の資格について——業務監査権限との関連において——企業法研究一四六輯・『会社法の論理』所収

取締役の自己取引行為を無効とする旨の総会決議の効力、その他〔判批〕

法学研究四〇巻七号〔商判Ⅰ〕

法の本質

法の淵源（慣習法、判例法、条理、類推）

『法学新講』（慶應義塾大学法学教育研究会編）

保険代位について

法学研究四〇巻一一号・『保険契約の法理』所収

保険代位について

保険学雑誌四三九号

昭和四三年

会社更生手続の開始と会社に対する譲渡担保権〔判批〕

法学研究四一巻三号

見せ金についての法律上の諸問題Ⅰ——商法上の考察——

判例タイムズ二一五号・『会社法の論理』所収

昭和四四年

会社役員の退職慰労金と商法二六九条

企業法研究一六九輯・『会社法の論理』所収

破産会社の旧代表取締役の詐欺的預金払戻とその責任

〔判批〕 法学研究四二巻八号〔商判Ⅱ〕

倉庫証券における内容物検査不相当な場合の免責約款の効力

金融・商事判例一八一号

株式会社分割とフランス商事会社法

財政経済弘報一三三二・一三三三合併号

昭和四五年

商法五六条一六一条、三七五条一三八〇条

別冊法学セミナー基本法コンメンタール商法Ⅱ

裏書の没収と連続ならびに商法五一八条による供託の効力〔判批〕

法学研究四三巻二二号〔商判Ⅱ〕

射替契約と条件の法理——損害保険契約法論のために——

法学研究四三巻三号・『保険契約の法理』所収

受取人欄白地の手形の受取人欄になされた記名の抹消・変更と裏書の連続（近藤龍司氏と共著）

法学研究四三巻四号〔商判Ⅱ〕

支払および不渡

『商法（手形・小切手）講義』（鴻常夫ほか編）青林書院

手形の無因性と権利の濫用 三色旗二六六号

商法二六五条と手形行為〔判批〕

法学研究四三卷五号〔商判Ⅱ〕

大森忠夫著「保険契約法の研究」〔書評〕

法学研究四三卷六号

法律答案診断室（出題と講評） 受験新報二〇卷八号

手形債権の消滅を知りまたは重過失により知らずに手

形を受け戻した者の再遡求権

金融・商事判例二一九号

株主名簿と名義書換え

株主名簿の閲覧

株主名簿の効力

株主名簿の閉鎖

株主名簿の閉鎖と基準日との関係

基準日

基準日の公告

最終発行価額（株式の）

出資の受入、預り金及び金利等の取締等に関する法律

新株の払込

新株の払込と相殺

新株発行の決議の瑕疵

新株発行事項の法定手続

発行価額（新株の）

発行価額（設立時の株式の）

発行価額の払込み

発行差止め（新株の）

発行条件均等の原則

発行予定価額

割合価額、ほか

『株式会社法辞典』（田中誠二編）同文館

昭和四十六年

営利社団法人の意義

法学研究四四卷二号・『会社法の論理』所収

リベリア会社法〔I〕～〔Ⅵ〕〔翻訳と解説〕

海事産業研究所報五六号～六一号

被保険利益の契約法的機能——譲渡担保権設定者の被

保険利益を契機として——

『現代保険理論の問題点とその解明』（庭田範秋編）

船舶海上保険における主務大臣の許可なしに変更され

た普通保険約款の拘束力、免責約款上の「襲撃」の

意味〔判批〕

金融・商事判例二五七号

損害保険金請求権の消滅時効起算点〔判批〕

法学研究四四卷六号〔商判Ⅱ〕

船名未詳保険と予定保険

損害保険研究三三卷三号・『保険契約の法理』所収

貨物自動車運送約款中の免責約款の効力〔判批〕

別冊ジュリスト 34 運送判例百選
オーブン・ポリシーによる保険契約

財政経済弘報一四三九号

昭和四七年

手形の流通方法

裏書の方法

小切手における支払委託の取消

『演習商法（手形小切手）』（鴻常夫・河本一郎・北沢正啓・佐藤庸・戸田修三）青林書院・『手形法の判例と論理』所収

保険金債権の時効起算点について

保険学雑誌四五五号・『保険契約の法理』所収

白地手形について除権判決があった場合と右手形再発

行請求権〔判批〕

金融・商事判例三〇七号・『手形法の判例と論理』所

収

保険約款に対する司法的規制

保険学雑誌四五六号・『保険契約の法理』所収

保険契約における保険者の出捐

『大森先生還暦記念論文集・商法・保険法の諸問題』有斐閣・『保険契約の法理』所収

満期日の変造と手形行為の効力、融通手形振出の趣旨〔判批〕
法学研究四五卷九号〔商判Ⅱ〕

手形交付の欠缺

『判例演習講座商法Ⅱ』（小橋一郎・山口幸五郎編）世界思想社・『手形法の判例と論理』所収

予定保険契約の構造

私法三四号

裏書以外の方法による手形の譲渡

法学研究四五卷一〇号・『手形法の判例と論理』所収
支配人の双方代理により振り出された約束手形に対する本人の責任〔判批〕

法律のひろば二五卷一一号・『手形法の判例と論理』

所収

告知義務の法的根拠

生命保険文化研究所報二二号・『保険契約の法理』所収

保険契約一般

『保険・海商法』（戸田修三、西島梅治編）青林書院
民事保証人が割引手形を買い戻した場合における抗弁

〔判批〕

金融・商事判例三三九号・『手形法の判例と論理』所収

昭和四八年

パナマ株式会社法ⅠⅡ〔翻訳と解説〕

海事産業研究所報七九号～八五号

小切手による保険料支払

損害保険研究三五卷一号・『保険契約の法理』所収

責任保険における被害者の直接請求権

『現代損害賠償法講座8損害と保険』日本評論社・

『保険契約法の現代的課題』所収

船主責任制限制度の方向 財政経済弘報一五〇一号

有価証券と免責証券

有価証券の善意取得

有価証券の喪失とその救済

『法学演習講座5 商法総則・商行為』法学書院
著しい損失報告

企業法研究二一七輯・『会社法の論理』所収

盗取された約束手形に振出人として署名した者の手形

上の責任〔判批〕

ジュリスト五三五号（昭和四七年度重要判例解説）・

『手形法の判例と論理』所収

農協共済と相互保険の法的比較^{(1) (3)}

全共連季報二四号・二五号・二六号

政府の自動車損害賠償保障事業の問題点〔研究会〕

日交研シリーズB・10日本交通政策研究会

取締役・監査役選任決議取消と既往関係の法的処理

企業法研究二一九輯・『会社法の論理』所収

交互計算

法学セミナー増刊『現代法学事典 第二卷』日本評論

社

生命保険

法学セミナー増刊『現代法学事典 第三卷』日本評論

社

代位弁済をした連帯保証人が善意の銀行から無担保裏

書により手形の交付を受けた場合における抗弁の成

否〔判批〕

金融・商事判例三八一号・『手形法の判例と論理』所

収

昭和四十九年改正商法における監査役の資格・選任・解

任 税経通信二八巻一三三・『会社法の論理』所収

累積投票制度の改正

税経セミナー一八巻一四号・『会社法の論理』所収

資本の意義と機能

『商法を学ぶ』(長浜洋一・平出慶道編)有斐閣

手形金の一部に関する原因債務不存在といわゆる二重

無権の抗弁〔判批〕法学研究四六巻一二号〔商判Ⅲ〕

昭和四十九年

未登記商号権者の地位

法学セミナー増刊セミナー法学全集6 商法Ⅰ(総

則・商行為)

予定保険契約立法試論

『損害保険事業研究所創立四〇周年記念論集』損害保

險事業研究所・『保険契約の法理』所収

告知義務

『損害保険双書Ⅰ火災保険』文真堂・『保険契約法の

現代的課題』所収

改正商法の要点(経営テープ講座E五・二)

日本短波放送

子会社の調査拒否権

企業法研究二二九輯・『会社法の論理』所収

死亡保険金の帰属

生命保険文化研究所報二七号・『保険契約の法理』

所収

手形債務の民事保証と裏書

法学セミナー増刊セミナー法学全集9 商法Ⅲ(手

形・小切手)・『手形法の判例と論理』所収

自動車保険のコンピュータ化に関する研究(1)〔研究

会〕日交研シリーズB・14・1日本交通政策研究会

『契約』から見た「近代社会の展開」

昭和四十九年度放送大学(仮称)実験番組『近代社会の

展開』日本短波放送

主債務者により支払がなされた後の手形を悪意で受戻

した裏書人の再遡求権〔判批〕

法学研究四七巻九号〔商判Ⅲ〕

昭和四十九年度司法試験解説・商法

法学セミナー二二八号

傷害保険契約

『体系商法事典』(鴻常夫・北沢正啓編)青林書院

『見せ金』による株式払込

法学セミナー二二〇号

新株発行関連問題

『会社法務事故百科』（星川長七ほか編）金融財政事情研究会

昭和五〇年

昭和四九年判例回顧と展望・商法 法律時報四七卷一号
商法五六条ノ六一条、三七五条ノ三八〇条

別冊法学セミナー21 基本法コンメンタール 改訂商法
II（会社法・監査特例法）

信用保険と保証保険

法学研究四八巻二号・『保険契約法の現代的課題』所収

いわゆる保険利益享受約款の効力・堪航能力担保義務の意義〔判批〕

金融・商事判例四五一号・『保険契約法の現代的課題』所収

取立委任文句および被裏書人の氏名の抹消と手形裏書の連続〔判批〕 法学研究四八巻四号〔商判Ⅲ〕

信用保険と保証保険

鈴木竹雄先生古稀記念論文集『現代商法学の課題上』有斐閣

中間配当の法的性格と会社役員の責任

企業法研究二三九輯・『会社法の論理』所収

実質的には個人企業である株式会社社の営業譲渡〔判批〕 法学研究四八巻五号〔商判Ⅲ〕

双方過失による自動車事故と責任保険

損害保険研究三七巻二号・『保険契約法の現代的課題』所収

手形行為の表見代理と無権代理人の責任〔判批〕

法学セミナー二四〇号・『手形法の判例と論理』所収
船荷証券上の保険利益享受約款の効力・堪航能力担保義務の意義〔判批〕

ジュリスト五九〇号（昭和四九年度重要判例解説）

損害保険契約における保険価額の意味 法学教室八号（第二期）

油濁と船主責任と国際条約（講演）

『クラブセミナーノートⅢ第三回油濁と船主責任』日本海運倶楽部

自動車保険の一本化をめぐる問題点の検討〔研究会〕

日交研シリーズB・15・1 日本交通政策研究会
荷渡指図書が発行された場合における荷渡指図書撤回の要件および効力〔判批〕 金融・商事判例四七一号

昭和五〇年司法試験問題解説・商法

法学セミナー二四三三

信用保険契約の構造

保険学雑誌四七〇号

第三者相互間における商法二二条適用の有無〔判批〕

別冊ジュリスト 49 商法（総則・商行為）判例百選

重役責任保険

『新種・自動車保険講座Ⅰ責任保険』日本評論社・

『保険契約法の現代的課題』所収

責任保険給付の特殊性

『新種・自動車保険講座Ⅰ責任保険』日本評論社

保険者と第三者（被害者）との関係

『新種・自動車保険講座Ⅰ責任保険』日本評論社

株式会社の社会的責任と取締役

企業法研究二四七輯・『会社法の論理』所収

昭和五〇年判例回顧・商法 法律時報四七卷一四号

表見代表取締役の手形署名代理〔判批〕

法学研究四八卷一二号〔商判Ⅲ〕

昭和五一年

商法六六七条と自賠法一六条

法学研究四九卷一号・『保険契約法の現代的課題』所

収

双方過失による自動車事故と責任保険

日交研シリーズ D・16 日本交通政策研究会

危険著増の知・不知と代理権

損害保険研究三八卷一号・『保険契約法の現代的課題』

所収

信用生命保険契約の法的性質

生命保険文化研究所所報三四号・『保険契約法の現代

的課題』所収

保証・信用保険論総説、各説

『新種・自動車保険講座Ⅲ保証・信用保険』日本評論

社

手形行為の意思表示に瑕疵がある場合の手形行為の効

力

『手形・小切手法を学ぶ』（菅原菊志・前田庸編）有

斐閣

社債発行枠拡大の問題点

企業法研究二五二輯・『会社法の論理』所収

承諾前死亡と契約の成否——吉田明氏の論文を読んで——

生命保険経営四四卷三号・『保険契約法の現代的課題』

所収

生命保険契約

別冊法学セミナー 26 基本判例シリーズ 11 判例商法Ⅰ

取締役の第三者に対する責任の消滅時効期間〔判批〕

ジュリスト六一五号(昭和五〇年度重要判例解説)・

『会社法の論理』所収

交通事故加害者と離婚慰謝料

自動車保険ジャーナル一六一号

保険金額と損害賠償額

『葛城照三博士古稀記念・損害保険論集』損害保険事

業研究所・『保険契約法の現代的課題』所収

新自動車保険について〔研究会〕

日交研シリーズB・17日本交通政策研究会

交通事故の示談契約における責任保険者の地位とその

調査義務〔判批〕

金融・商事判例五〇一号・『保険契約法の現代的課題』

所収

昭和五一年司法試験問題解説・商法

法学セミナー二五八号

個人会社と商法二六五条・共通の代表取締役による会

社間の取引と民法一一五条〔判批〕

法学研究四九卷一一号〔商判Ⅲ〕

昭和五一年判例回顧・商法 法律時報四八卷一三三

昭和五二年

責任保険における被害者の法的地位と直接請求権〔講

演〕 自動車保険料率算定会企画室資料二二二

白地手形法論・管見

法学研究五〇巻一号・『手形法の判例と論理』所収

保険業

『商法入門(2)総則・商行為・手形・小切手』(河本一

郎・北沢正啓編)(有斐閣新書)

保険代位の対象物たる「残存物」

保険学雑誌四七六号・『保険契約法の現代的課題』所

収

簡易化の困難性

簡保が比較的实施し易い商品の設計

簡易災害保険の法的根拠

『簡易災害保険に関する研究』(園乾治ほか) 郵政省

簡易保険局

株式の仮装払込の効力と関係者の責任

『商法Ⅰ(判例と学説5)』(北沢正啓編) 日本評論社

計算 『会社法』(青林双書)(酒巻俊雄・志村治美編)

社債制度と株主・債権者保護

企業法研究二六四輯・『会社法の論理』所収

保険経営と法律 『保険経営学』(庭田範秋編) 有斐閣

港湾運送における保険利益享受約款の解釈〔判批〕

金融・商事判例五二一号・『保険契約法の現代的課題』所収

資本の単位としての株式と社員権の単位としての株式

企業法研究二六五輯・『会社法の論理』所収

商法判例の動き

ジュリスト六四二二号 (昭和五一年度重要判例解説)

商法六四〇条～六四八条

『判例コンメンタール商法Ⅲ下』三省堂

白地手形の除権判決と再発行請求権の有無〔判批〕

ジュリスト六四二二号 (昭和五一年度重要判例解説)・

『手形法の判例と論理』所収

支払の見込みがないのに約束手形を振り出した取締役

の第三者に対する過失相殺〔判批〕

法学研究五〇巻八号〔商判Ⅲ〕

自動車の衝突事故と相殺——責任保険との関係——

ジュリスト増刊 総合特集八号 交通事故——実態と法

理

昭和五二年度司法試験問題解説・商法

法学セミナー二七〇号

主たる運送契約上の免責約款と再運送〔判批〕

信用保険契約における填補すべき損害〔判批〕

別冊ジュリスト55 商法(保険・海商)判例百選

自動車保険——激動の一〇年を顧みて〔研究会〕

日交研シリーズB・21日本交通政策研究会

為替手形

小切手

手形・小切手に共通する制度

『手形・小切手の法律入門』(田村諄之輔・前田重

行・大塚龍児の各氏と共著)有斐閣

損害・人保険および定額・物保険——保険契約分類論

の再検討—— 生命保険文化研究所報四一号

保険利益享受約款の効力について法学研究五〇巻一二号

昭和五三年

ワルソー条約による航空運送人の責任制限と遅延損害

金〔判批〕 金融・商事判例五四〇号

職務執行停止仮処分中にあらたに選任された代表取締役

役の権限〔判批〕 法学研究五一巻四号〔商判Ⅲ〕

手形譲受人の事故防止 経営法務二四号

商法判例の動き

ジュリスト六六六号 (昭和五二年度重要判例解説)

銀行から手形を買戻した民事保証人の法的地位〔判

批〕

ジュリスト六六六号（昭和五二年度重要判例解説）・

『手形法の判例と論理』所収

昭和五三年度司法試験問題解説・商法

法学セミナー二八二号

約束手形

振出

『手形法・小切手法』（青林双書）（蓮井良憲、酒巻俊

雄編）

損益相殺と保険代位

『相馬勝夫博士古稀記念論文集・現代保険法学の諸問

題』専修大学出版局

為替手形の振出および方式

裏書

『注釈手形法・小切手法』（有斐閣新書）（斎藤武・田

邊光政・木内宜彦の各氏と共著）

管財人による取締役等に対する責任追及

金融・商事判例五五四号・『会社法の論理』所収

業務執行機関の権限と責任

企業法研究二八一輯・『会社法の論理』所収

盗難保険について

法学研究五一巻一〇号

手形外の保証について

法学研究五一巻一号・『手形法の判例と論理』所収

責任保険における被害者の直接請求権

ジュリスト増刊 商法の争点

昭和五四年

預手の法的性格と盗難者への支払いの免責関係

銀行実務九巻一号

運送品が全部滅失したがこれによる被害が全く生じな

い場合と運送人損害賠償責任（判批）

金融・商事判例五六一号

手形行為の表見代理における第三者の範囲（判批）

法律のひろば三二巻三号・『手形法の判例と論理』所

収

除権判決と手形取得者の権利（判批）

法学研究五二巻三号（商判Ⅲ）

株式の質入と配当金の帰属（判批）

別冊ジュリスト63 会社判例百選（第三版）

監査役の改善策と問題点

法律のひろば三二巻四号・『会社法の論理』所収

生命保険・傷害保険と被害者補償制度

ジュリスト六九一号

改正試案による株主総会の運営

代行リポート四七号

誌上答案練習会 (有価証券法) Law School 九号

商法判例の動き

ジュリスト六九三号 (昭和五三年度重要判例解説)

法人の代表者個人に対する責任追及 経営法務三七号

株主総会の決議の瑕疵

金融・商事判例五七二号・『会社法の論理』所収

商法計算規定の改正をめぐる問題 (一) (六) (研究会)

企業会計三二巻八号・九号・一〇号・一一号・一二

号・三二巻一号

運送品の全部滅失の場合における荷主の損害不発生と

運送人の責任 (判批)

判例タイムズ三九〇号 (昭和五三年度民事主要判例解

説)

昭和五四年司法試験問題解説・商法

法学セミナー二九五号

共同代表取締役と表見代理

白地手形 別冊法学セミナー41 司法試験シリーズ商法

額面金額の三分の一にも満たない対価で手形を取得し

た所持人の手形請求と権利濫用 (判批)

法学研究五二巻一一号 (商判Ⅲ)

会社法の目的

会計人コース一四巻一五号

昭和五五年

計算書類の確定権限と商法規定 企業会計三二巻一号

司法試験論文式問題解説・商法 (昭和四九年～五四年)

別冊法学セミナー42 司法試験問題集 (一九八〇年版)

手形小切手法 (論点整理と答案作成法)

法学セミナー三〇〇号

債権者を保険金受取人とする生命保険契約 (判批)

自殺の意義 (判批)

別冊ジュリスト 67 生命保険判例百選

商業登記

『商法 (総則商行為) 講義』 (青林講義シリーズ) (鴻

常夫・河本一郎・佐藤庸・戸田修三編)

法律行為としての手形・小切手行為

Law School 一八号・『手形法の判例と論理』所収

昭和四〇年代における会社判例法

税経セミナー二五巻五号

会社分割の問題点 税経通信三五巻五号

結合企業法の研究 第三部研究報告 (質疑・討論)

金融・商事判例五九四号

企業組合の脱退組合員に対する払戻持分計算のための

組合財産の評価、業務担当理事の組合に対する責任

〔判批〕

判例タイムズ四一一号（昭和五十四年度民事主要判例解説）

説）

商法判例の動き

ジュリスト七一八号（昭和五十四年度重要判例解説）

責任保険金債務の履行期

『田辺康平先生還暦記念論文集・保険法学の諸問題』

文眞堂

株式会社社の計算・公開に関する改正試案について

産業経理四〇巻七号

企業結合・合併・分割の法制上の問題点

企業会計三二巻七号

自動車の盗難と被保険者の重過失〔判批〕

別冊ジュリスト70 損害保険判例百選

チェックライター物神化の戒め（法務時評）

手形研究三〇一号

商法五七八条と運送人の不法行為責任〔判批〕

判例評論二五八号（判例時報九六六号）

昭和五五年度司法試験問題解説・商法

法学セミナー三〇七号

水害保険契約の構想

『水害保険制度に関する研究（Ⅱ）』建設省・水害保

険制度研究会

複数監査役の職務分担と監査役会

月刊監査役一三八号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

現行保険業法の問題点（学会報告）

自動車保険ジャーナル三七六号

融通手形の取得と悪意の抗弁〔判批〕

法学研究五三巻一〇号〔商判Ⅲ〕

現行保険業法の問題点（学会報告）

インシユアランス二九五八号

株式とは何か、それはどのようにして譲渡されるか

『テキストブック会社法』（酒巻俊雄・柿崎栄治・戸

塚登・堀口亘・田村諄之輔の各氏と共著）有斐閣

商法上の会社の種類と経営形態

税経セミナー二五巻一四号

振出人の住所の確認（法務時評）

手形研究三〇四号

一九八〇年学会回顧・保険・海商法

法律時報五二巻一二号

株式会社と私的自治

商品取引所法と委託者保護

法学セミナー増刊 総合特集シリーズ14 現代の企業

昭和五六年

我が国損保事業の選択と進路(上)(下)〔座談会〕

インシユアランス（損保版）新年特集号'81 二九六五

号

会社法改正と監査役——改正要綱案をどう理解したら

よいか――

月刊監査役一四二号・『会社法改正の論理』所収
会社法——改正試案と今後の課題

改正試案と今後の課題

ジュリスト七三一号・『会社法改正の論理』所収

司法試験論文式問題解説・商法（昭和五十一年～五五）

別冊法学セミナー46 司法試験問題集〔八一年版〕

商法改正と銀行の支店（法務時評） 手形研究三〇八号

一九八〇年主要判例解説・商法

手形研究三〇八号

・判例の概観

・営業のために使用を許諾した名称が手形取引のた

めだけに使用された場合における許諾者の責任

- ・手形偽造者の悪意取得者に対する責任

- ・裏書不連続手形の呈示と遡求権

法学セミナー 三一三号

株主の権利行使に関する利益供与の禁止

税経通信三六卷三号・『会社法改正の論理』所収

株式会社改正の一般的動向

株式に関する改正論

株主総会に関する改正論

取締役および取締役会に関する改正論

監査役に関する改正論

計算書類に関する改正論

外觀上良好に船積みされた旨の船荷証券上の記載

船荷証券上の裁判管轄約款

海難救助

ワルソー条約二五条の「故意に相当する過失」

手形理論

『論点商法入門』(中村一彦・西島梅治編) 同文館

会社の計算に関する改正要綱の概要

法律のひろば三四巻四号・『会社法改正の論理』所収

商法改正要綱の問題点

税経セミナー二六巻五号・『会社法改正の論理』所収

相続人の署名と裏書の連続〔判批〕

別冊ジュリスト72 手形小切手判例百選(第三版)

株主総会の運営

手形所持人の形式的資格

商法特別法の改正と今後の企業会計法制〔シンポジウム〕

企業會計三三卷九号

株式制度

税経セミナー二六卷一三号・『会社法改正の論理』所

収

銀行による不渡符箋のついた手形の裏書と手形法二〇

金融・商事判例六二五号

損害保険会社のディスクロージャー（スクランブル）

商事法務九一八号

営業報告書に対する附属明細書

企業会計三三卷一・『会社法改正の論理』所収

会社の取締役等に対する損害賠償請求権の査定

金融・商事判例六二七号

取締役の責任解除規定廃止とその効果

商事法務九一九号・『会社法改正の論理』所収

保険の種類と保険契約

損害保険と生命保険

『保険（生活の法律相談シリーズ）』（編著）法学書院

当座取引開設時の銀行の注意義務

得意先係による預り金横領の場合、あるいは帰行途中

の盗難の場合における銀行の責任

小切手の預入と預金の成立

預金額の誤記と銀行の責任

当座取引解約時の銀行の注意義務

『金融事故の民事責任』(酒巻俊雄・徳本鎮編) 一粒社

司法試験論文式問題解説・商法(昭和五二年～五五年)

別冊法学セミナー49 司法試験問題集(八二年版) 自賠責保険契約における被保険損害

法学研究五四卷一一号

手形債権の確定と原因債権の時効 手形研究三一九号

一九八一年学会回顧 保険法・海商・航空法

法律時報五三卷一三三三

企業行動と法

経済セミナー三二三三

取締役と取締役会

税経セミナー二六卷一六号・『会社法改正の論理』所収

収

書面投票制度の新設と委任状勧誘

代行リポート五九号・『会社法改正の論理』所収

発起人が代表取締役と称してなした開業準備行為の効

力(判批) 法学研究五四卷一二号(商判Ⅳ)

法務省令への期待

産業経理四一卷一二号

『口語訳・基本六法全書 一九八二年版』

自由国民社

昭和五七年

商法五六条～六一条・二九三条の三の二～二九三条の三

の六、三七五条～三八〇条

別冊法学セミナー50・51 基本法コンメンタール新版

会社法1・2

端株・単位未満株と株式担保

手形研究二六卷二二号・『会社法改正の論理』所収

一九八一年主要判例解説・商法

・判例の概観

・取締役会の無効な決議により選任された代表取締役

役と商法二六二条

・取締役の競業と忠実義務違反による責任

・生命保険の解約払戻金

・裏書の連続

・銀行による不渡符箋のついた手形の裏書と手形法

二〇条一項

法学セミナー三二五号

株主総会の運営

税経セミナー二七卷三号・『会社法改正の論理』所収

監査役は改正商法をどのように受けとめるべきか(シン

ンポジウム・司会)

月刊監査役一五八号

自動車保険の変遷とその法律上の問題——自賠償保険
を中心として——〔座談会〕

安田火災記念財団叢書一七号

『民事法小辞典』（遠藤浩ほか編） 一粒社
株式と株券（一）——株式

会計人コース別冊二二号 商法の学び方・考え方

支払および不渡

『商法（手形・小切手）講義』改訂版（鴻常夫ほか

編） 青林書院

計算

『会社法』（青林双書）改訂版（酒巻俊雄・志村治美

編）

指名債権譲渡の方法による移転

共同受取人の裏書

隠れた取立委任裏書

手形保証の独立性

支払呈示期間経過後の支払呈示

支払をする者の調査義務

偽造手形の支払と銀行の調査義務

『学説判例 商法Ⅲ 手形法・小切手法』（蓮井良憲ほか編） 学陽書房

保険契約者貸付——その法的性質——

ジュリスト七六六号

株式とは何か、それはどのようにして譲渡されるか

『テキストブック会社法（第二版）』（酒巻俊雄・柿崎
栄治・戸塚登・堀口亘・田村諄之輔の各氏と共著）有
斐閣

商法判例の動き

自賠法にもとづく自動車損害賠償責任保険金請求権の

被転付適格性〔判批〕

ジュリスト七六八号（昭和五六年度重要判例解説）

附属明細書

企業会計三四卷六号・『会社法改正の論理』所収

会計原則・商法規則の改正と実務上の課題〔シンポジ

ウム〕

企業会計三四卷七号

券面額引上・単位株・端株

『改正会社法の基本問題』（高島正夫編）慶應通信

昭和五七年度司法試験問題と解説・商法

Law School 四七号

新商法における引当金の考え方

税経通信三七卷一一号・『会社法改正の論理』所収
利益供与の禁止

税経セミナー二七卷九号・『会社法改正の論理』所収

火災保険の告知義務

『新損害保険双書 1 火災保険』(田辺康平・石田満

編) 文眞堂

株式単位引上げの意義と機能

民商法雑誌八六卷六号・『会社法改正の論理』所収

取締役の競業禁止義務・委任義務違反とその効果――

山崎製パン事件〔判批〕

判例タイムズ四七二号(昭和五十六年度民事主要判例解

説)

単位未満株式と端株

金融・商事判例六五一号

木内宜彦著「特別講義手形法小切手法」〔書評〕

受験新報三二卷一〇号

無効の選任決議にもとづく協同組合代表理事の権限濫

用行為〔判批〕

法学研究五五卷一〇号〔商判Ⅳ〕

〔商法〕とは何か〔新商法の基礎第一講〕

税経セミナー二七卷一一号

取締役の責任解除と不正行為

取締役の会社に対する責任

取締役の第三者に対する責任――間接損害

平取締役の監視義務

表見取締役の第三者に対する責任

取締役の第三者に対する責任の消滅時効期間

取締役の職務執行停止仮処分の効力

代表取締役職務代行者による臨時総会の招集と会社の

常務

監査役の調査報告義務

法学セミナー二六卷一一号別冊付録『判例ハンドブッ

ク〔会社法〕』

企業の活動〔1〕(新商法の基礎第二講)

税経セミナー二七卷一二号

『事業経営の法律知識 五八年度』

自由国民社

企業の活動〔2〕(新商法の基礎第三講)

税経セミナー二七卷一四号

一九八二年学界回顧・保険・海商・航空法

法律時報五四卷一二号

司法試験論文式問題解説・商法(昭和五三年～五五

年)別冊法学セミナー54 司法試験問題集(八三年版)

手形保証の方式と効力

手形研究三三四号

昭和五八年

一、交通事故の被害者が自動車損害賠償保障法一六条

一項の規定に基づき保険会社に対して提起した損害

金支払請求訴訟について支出した弁護士費用が交通

事故と相当因果関係のある損害と認められた事例

二、保険会社が自動車損害賠償保障法一六条一項の規定に基づいて被害者に対して負担する損害賠償債務と商法五一四条〔判批〕

判例評論二八七号（判例時報一〇五八号）
会社とは何か〔1〕（新商法の基礎第四講）

税経セミナー二八卷一号
保険法（のびゆく現代法——産業法シリーズ）

法と政策二二号

建物更正共済に関する研究会記録（座談会）

全国共済農業協同組合連合会総合調整室

一九八二年主要判例解説・商法

・判例の概観

・交通事故被害者の損害賠償請求訴訟と併合して提起された保険金代位請求訴訟

・自賠法一六条一項にもとづく被害者の保険会社に対する直接請求権の性質

・白地手形による手形金請求訴訟の棄却判決確定後になされた白地補充

・裏書の連続を欠く手形による訴訟の提起と消滅時

効の中断

会社とは何か〔2〕（新商法の基礎第五講）

税経セミナー二八卷二号

株主総会

『改正会社法詳説』（堀口亘・酒巻俊雄編）三嶺書房

自動車責任保険における被害者の直接請求権の法的性質

道経研シリーズA・9『道路交通事故被害者の保険的救済をめぐる諸問題』道路経済研究所

株式と資本

附属明細書

『新商法・計算書類規則企業会計原則の総合解説』中
央経済社

会社の運営〔1〕（新商法の基礎第六講）

税経セミナー二八卷三号

株式の質入と配当金の帰属〔判批〕

別冊ジュリスト80 会社判例百選（第四版）

法律学 『社会科学への発想』（石坂巖編）三一書房

会社の運営〔2〕（新商法の基礎第七講）

税経セミナー二八卷四号

隠れた保証裏書の効力

所持人の同一性と善意取得〔講演〕受験新報三三卷五号
会社の運営〔3〕(新商法の基礎第八講)

税経セミナー二八卷五号

発起人の権限と開業準備行為

株式単位の引上げと単位株制度

株主総会の活性化と権限のあり方

昭和五六年改正法における取締役と取締役との関係

複数監査役・常勤監査役、計算規定の改正と引当金

外観上良好に船積された旨の船荷証券上の記載

船荷証券上の裁判管轄約款、

海難救助

手形理論

『論点商法入門』(中村一彦・西島梅治編)(改訂版)

同文館

株式制度改正の意味(改正商法入門1)

三田理財クラブ125 一巻三号

監査役の監査意見の表明と責任

税経通信三八卷六号・『会社法改正の論理』所収

商法判例の動き

昭和四一年改正前商法下における裏書以外の方法によ

る記名株式譲渡の効力〔判批〕

ジュリスト七九二号(昭和五七年度重要判例解説)

大浜信泉教授の手形法論〔講演〕早稲田法学五八卷二号

端株制度

『会社法演習Ⅰ総論・株式会社(設立・株式)』(上柳

克郎・鴻常夫・竹内昭夫編)有斐閣

会社の運営〔4〕(新商法の基礎第九講)

税経セミナー二八卷七号

建物更正共済に関する研究会記録〔座談会〕

全国共済農業共同組合連合会渉外部

株主総会規定改正の目的(改正商法入門2)

三田理財クラブ125 一巻四号

支店の実質をそなえない営業所所長の代理権と表見責

任〔判批〕法学研究五六卷七号〔商判Ⅳ〕

会社の計算〔1〕(新商法の基礎第一〇講)

税経セミナー二八卷七号

無額面株式の機能と一斉転換の問題点

代行リポート六六号・『会社法改正の論理』所収

大小会社区分の意義

企業会計三五卷八号・『会社法改正の論理』所収

会社の計算〔2〕(新商法の基礎第一一講)

税経セミナー二八卷九号

取締役会と監査役会（改正商法入門3）

三田理財クラブ1251巻五号

会社の資本変動・合併・倒産（新商法の基礎第一二

講）

税経セミナー二八巻一〇号

商法計算規定の理念と機能

産業経理四三巻三号・『会社法改正の論理』所収

責任保険における被害者の直接請求権

ジュリスト増刊 商法の争点（第二版）

各種の企業／運送業・倉庫業・保険業（新商法の基礎

第一三講）

税経セミナー二八巻一一号

有価証券制度

有価証券をめぐる法律関係

『商法Ⅲ（手形小切手法）』（高鳥正夫編）法学書院

商法のシステムの解説——商法を支配する三つの原則

『図解による法律用語辞典』別冊付録『法学短期マス

ター講座』自由国民社

大小会社の区分について 法律のひろば三六巻一一号

会社の計算Ⅰ（改正商法入門4）

三田理財クラブ1251巻六号

有価証券（新商法の基礎第一四講）

税経セミナー二八巻一二号

委託証拠金充用証券の返還不能の場合における現物の

返還請求（判批）

商品先物市場七巻一二号

共同代表取締役と表見代理

白地手形

別冊法学セミナー59 司法試験シリーズ商法「新版」

新商法実務定着への課題・企業内容開示の充実をめく

って（アンケート）旬刊経理情報三六七号・三六九号

海商法の特徴、補論（新商法の基礎第一五講）

税経セミナー二八巻一三号

昭和五九年

いわゆる「一元化」の意味——商法から企業会計原則

への提言——

企業会計三六巻一号・『会社法改正の論理』所収

一九八三年主要判例解説・商法

・判例の概観

・高価品の鉄道運送と商法五七八条

・生命保険契約における保険金受取人として「妻

A」と指定することの意味

・満期前に遡求の要件を充たすために手形を呈示す

べき場所

・商品取引所法八条の法意 法学セミナー三五一号

司法試験論文式問題解説・商法 (昭和五四年) 五五年)

別冊法学セミナー 60 司法試験問題集 (一九八四年版)

重複保険に関する普通保険約款の効力 (判批)

金融・商事判例六八八号

設立準備金としての金銭借入と成立後の会社の責任

(判批)

法学研究五七卷三号 (商判Ⅳ)

中小会社監査と適法性証明

税経通信三九卷三号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

商法の対象

『商法総則・商行為法』(戸田修三・中村真澄編) 青

林書院

手形・小切手法 (新・法律学への招待)

法学セミナー増刊 法学入門一九八四年 (以後、一九

九〇年版まで掲載)

保険の法律『法律の常識大百科』(渡部喬一編) 講談社

自動車責任保険における被害者直接請求権の法的性質

法学研究五七卷六号

商法判例の動き

ジュリスト八一五号 (昭和五八年度重要判例解説)

機械保険

組立保険

動産総合保険

投資受託者の議決権

盗難保険

風水害保険

ボイラ保険、ほか

『会社法務大辞典』(大隅健一郎ほか編集代表) 中央

経済社

手形の流通方法

裏書的方式

小切手における支払委託の取消

『演習商法 (手形小切手)』改訂版 (鴻常夫・河本一

郎・北沢正啓・佐藤庸・戸田修三) 青林書院・『手形

法の判例と論理』所収

被裏書人欄抹消の効果 (講演)

無権代理人と善意支払 (講演) 受験新報三四卷八号

商法五六条ノ六一条

二九三条の三の二ノ二九三条の三の六

三七五条ノ三八〇条

別冊法学セミナー 62・63・64 基本法コンメンタール

会社法1・2・3 (第三版)

大小会社区分立法について

会計人コース一九卷一一号・『株式会社監査機構のあり方』所収

大小会社区分立法をめぐる諸問題 (第一回～第五回)

〔座談会〕

旬刊速報税理三卷三〇号・三十一号・三二号・三三号・

三四号

保険契約

損害保険、ほか

『国民法律百科大辞典』(伊藤正己ほか編) ぎょうせ

い

なぜ「大小区分立法」か (時の話題) 三田評論八五二号

監査役の地位と「監査役会」

月刊監査役一九六号・『会社法改正の論理』所収

会社、ほか

株式・持分に関する問題点 (アンケート)

旬刊経理情報四〇一号

「大小会社区分立法」の動向——各界意見の分析と若

干の私見——

企業会計三六卷一二号・『会社法改正の論理』所収

A案の立場からみたB案、C案の問題点

税理二七卷一五号・『株式会社監査機構のあり方』所

収

保証保険・信用保険・ボンド

『現代契約法体系 第六卷』(遠藤浩・林良平・水本浩

監修) 有斐閣

大小会社区分立法をめぐる諸問題 (第一回～第五回)

〔座談会〕

法律のひろば三七卷一二号・三八卷一号・二号・三

号・四号

昭和六〇年

改正商法における株主の提案権・質問権

民事研修三三四号

司法試験論文式問題解説・商法 (昭和五五年)

別冊法学セミナー66 司法試験問題集 (一九八五年版)

株主総会の活性化 (コラム)

『現代企業組織法 (企業法Ⅲ)』(中村一彦編) 同文館

小株式会社の外題「監査」問題

税経通信四〇卷二号・『会社法改正の論理』所収

第三者相互間における商法一二条適用の有無 (判批)

別冊ジュリスト84 商法 (総則・商行為) 判例百選

(第二版)

答案練習会 (出題と解説)

受験新報三五卷二号

一九八四年主要判例解説・商法

・判例の概観

・商法二八〇条ノ一三により新株を引受けたものと

みなされる取締役が株主となる時期

・運送人の不法行為責任と商法五七八条

・損害保険契約において保険料債務が取立債務と認められた事例

・約束手形の振出人が時効の利益を放棄した場合における裏書人の遡求義務および再遡求権

法学セミナー三六三号

企業取引

『企業・現代社会・法』(中村一彦・志村治美編) 三

嶺書房

保険業法等の問題点について〔講演〕

『社会経済の動向と簡易保険・郵便年金講演集Ⅶ』通

信事業教育振興会

大小会社区分立法をめぐる諸問題〔座談会〕

『大小区分立法の問題点検討』(北沢正啓・酒巻俊雄

編)

運送品たる現金在中の小荷物が列車への積載の際にニ

セ車掌に騙し取られた事案につき、運送人に重大な

過失は認められないとした事例ほか——国鉄函館駅

現金袋詐欺事故損害賠償請求事件第一審判決〔判

批〕 判例評論三一四号(判例時報一二四二号)

額面株式と無額面株式

『基本問題セミナー会社法』(酒巻俊雄・柿崎栄治編)

一粒社

公的保障・私的保障の運営主体

『公的保障と私的保障に関する研究会』生命保険文化

センター

主債務者に対する手形金請求の時効消滅と割引依頼人

に対する手形買戻請求権〔判批〕

法学研究五八巻四号〔商判Ⅳ〕

小株式会社の外部「監査」問題

中小会社監査と適法性証明

別冊税経通信五号(限定監査試論)

「会計専門家による外部監査」を考える〔座談会・司

会〕 企業会計三七巻五号

会社のために手形行為をする権限のない取締役のなし

た約束手形振出の効果〔判批〕

監査機構

金融・商事判例七一六号

『現代企業法講座3企業運営』（竹内昭夫・龍田節編）

東大出版会・『株式会社監査機構のあり方』所収

更生手続と取締役・監査役

金融・商事判例七一九号・『株式会社監査機構のあり方』所収

商法判例の動き

盗取された株式を悪意又は重大な過失により取得した

者に対する受寄者の返還請求権（判批）

ジュリスト八八七号（昭和五九年度重要判例解説）

株主による額面・無額面株式転換請求と株券の提出

（判批）

民商法雑誌九二巻四号

現行商法における「監査」の意義

産業経理四五巻二号・『会社法改正の論理』所収

監査役と会計監査人をめぐる諸問題（上）（座談会）

旬刊経理情報四二八号・四二九号

要式証券性

指図証券性

呈示証券性

意思表示の瑕疵

裏書の連続

善意取得

期限後裏書

手形保証

『分析と展開商法Ⅱ（手形・小切手法）』（岩崎稜・田

邊光政・奥島孝康・木内宜彦・庄子良男の各氏と共

著）弘文堂

小規模会社「監査」の方向

税経通信四〇巻一二号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

生命保険といのちの値段

法学セミナー三〇巻一二号

昭和六一年

商法二三〇条の二（二三〇条の六

『新版注釈会社法（4）株式（2）』（上柳克郎・鴻常夫・竹

内昭夫編）有斐閣

手形法・小切手法の鳥瞰的構図

総論——有価証券の意義、有価証券の種類、有価証券

と類似の証券、手形・小切手の沿革と経済的機能、

手形法・小切手法、手形の種類・約束手形の意義、

為替手形の意義、小切手の意義、手形・小切手の無

因証券性、国際手形法・小切手法、手形・小切手訴

訟手続の特色、手形・小切手犯罪

『手形法・小切手法一〇〇講』(編著) 学陽書房
株式の併合

『演習商法(会社) 下巻』(鴻常夫・北沢正啓・河本
一郎・戸田修三編) 青林書院

最低資本金と大小会社区分立法

税経通信四一巻七号・『会社法改正の論理』所収
中小会社の商法監査の検討〔座談会〕

税経通信四一巻九号

「見せ手形」の抗弁〔判批〕

法学研究五九巻八号〔商判Ⅳ〕

会社の公開規定

企業会計三八巻八号・『会社法改正の論理』所収
自家用自動車保険普通保険約款中の、保険契約者の故
意によつて生じた損害を填補しない旨の条項につき、
右「故意」には未必の故意は含まれないとして、保
険会社の免責を認めなかった事例〔判批〕

判例評論三三〇号(判例時報一九九四号)

商法一九九条ノ二〇三条、附則一五条ノ二二条

『注解会社法(上巻)』(戸田修三・蓮井良憲・元木伸
編) 青林書院

会社判例の基礎・連載予告 法学セミナー三八一号

法律学者の立場から会社法改正試案を考える

会計ジャーナル一八巻九号・『株式会社監査機構のあ
り方』所収

会社の目的と権利能力(会社判例の基礎第一講)

法学セミナー三八二号

いわゆる「積立型保険」について——意見書——

法人格の否認(会社判例の基礎第二講)

生命保険協会

法学セミナー三八三号

株主総会のゆくえを握るもの——一九八六年版株主総

会白書を読んで——

商事法務一〇九七号・『会社法改正の論理』所収

優先株式・無記名株式

金融・商事判例七五五号・『会社法改正の論理』所収
発起人の開業準備行為(会社判例の基礎第三講)

法学セミナー三八四号

昭和六二年

「見せ金」による株式払込(会社判例の基礎第四講)

法学セミナー三八五号

株券発行前の株式譲渡(会社判例の基礎第五講)

法学セミナー三八六号

株式の譲渡制限（会社判例の基礎第六講）

法学セミナー三八七号

株主総会の最高機関性と監査役

月刊監査役二二〇号・『会社法改正の論理』所収

商法二八〇条の四、二八〇条の五

『新版注釈会社法(7)新株の発行』（上柳克郎・鴻常

夫・竹内昭夫編）有斐閣

全員出席総会（会社判例の基礎第七講）

法学セミナー三八八号

最低資本金をめぐる問題点

税経セミナー三二五号・『会社法改正の論理』所収

議決権代理行使資格の制限（会社判例の基礎第八講）

法学セミナー三八九号

監査役の業務監査と監査意見の表明

商事法務二二二三号・『会社法改正の論理』所収

監査役の独立性と「自己監査」——最近の最高裁判決

を中心として——

旬刊経理情報四八八号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

監査役の本質（シンポジウム・司会）

月刊監査役二二四号

商法判例の動き

ジュリスト九一〇号（昭和六一年度重要判例解説）

被保険自動車を買取る旨の合意が成立し、登録名義

の移転、残代金等の履行が残ったままで買受人が引

渡しを受け、運行の用に供しているうち右自動車に

ついて生じた事故は保険約款所定の譲渡にあたと

し、保険会社に保険金支払義務はないとされた事例

〔判批〕 判例評論三四〇号（判例時報一二二七号）

営業の譲渡（会社判例の基礎第九講）

法学セミナー三九〇号

何のための株主総会か（法律時評）法律時報五九卷八号

監査報告書と決算の確定（会計時評）

企業会計三九卷七号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

業法体制変革のきざし——昭和六二年答申（損保）を

読んで——インシュアランス（損保版）三二七七号

総会決議の瑕疵（会社判例の基礎第一〇講）

法学セミナー三九一号

有限責任制度のコスト（会計時評）企業会計三九卷八号

取締役の監視義務（会社判例の基礎第一一講）

法学セミナー三九二号

企業の内と外 (会計時評)

企業会計三九巻九号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

企業会計原則の機能と商法

企業会計三九巻九号・『会社法改正の論理』所収

代表取締役の権限 (会社判例の基礎第一二講)

法学セミナー三九三号

企業経営者の責任——監督責任を中心として——

予防時報一五一号

表見代表取締役 (会社判例の基礎第一三講)

法学セミナー三九四号

監査役制度の現状と問題点 (I) (F) (座談会・司会)

月刊監査役二三八号・二三九号

取締役・会社間の取引 (会社判例の基礎第一四講)

法学セミナー三九五号

手形金額の記載における「文字」と「数字」

法学研究六〇巻一二号

取締役の会社に対する責任 (会社判例の基礎第一五

講)

法学セミナー三九六号

商法二八二条～二八四条

『新版注釈会社法(8)株式会社の計算(1)』(上柳克郎・

鴻常夫・竹内昭夫編) 有斐閣

会社の意義と種類

会社の社団法人性

資本と株式

総会決議の瑕疵

取締役会と代表取締役

監査役

合併

『分析と展開商法Ⅰ(会社法)』(岩崎稜・奥島孝康・

新山雄三・木内宜彦・森田章の各氏との共著) 弘文堂

昭和六三年

中小会社の調査はどうなるか——法制審・商法部会審

議の今後——公認会計士三田会会報一二号

取締役の第三者に対する責任 (会社判例の基礎第一六

講)

法学セミナー三九七号

株主名簿の閲覧請求と正当目的

ジュリスト九〇一号・『会社法改正の論理』所収

横すべり監査役 (会社判例の基礎第一七講)

法学セミナー三九八号

自社株取得の制限緩和——是か否か (座談会)

企業会計四〇卷三号

新株の発行（会社判例の基礎第一八講・完）

法学セミナー三九九号

隠れた取立委任裏書と人的抗弁（判批）

法学研究六一卷四号（商判V）

有価証券の法的意義

法学セミナー別冊87 法学ガイド商法Ⅲ（手形・小切手）

生存事故（金融商事の目） 金融・商事判例七九一号

手形理論（手形判例の基礎第一講）

法学セミナー四〇一号

手形金額の重複記載（手形判例の基礎第二講）

法学セミナー四〇二号

商法判例の動き

保険金受取人変更の方法（判批）

ジュリスト九一〇号（昭和六二年度重要判例解説）

債権者を保険金受取人とする生命保険契約（判批）

自殺の意義（判批）

別冊ジュリスト97 生命保険判例百選（増補）

責任保険の機能と現状

食品衛生研究三八卷六号
錯誤による手形行為（手形判例の基礎第三講）

法学セミナー四〇三号

保険判例の増加（金融商事の目）

金融・商事判例七九七号

偽造と無権代理（手形判例の基礎第四講）

法学セミナー四〇四号

「消費者の復権」と保険（法律時評）

法律時報六〇卷一〇号・『煉瓦の塔から』所収

インサイダーの意識（談・論）

旬刊経理情報五三二号・『煉瓦の塔から』所収

自動車傷害保険における事故の程度と因果関係

道経研シリーズA・32『自動車保険をめぐる諸問題の検討』道経経済研究所

農協参事の代理権濫用による手形行為（手形判例の基礎第五講）

現代の法学の展開と課題（シンポジウム）

法学セミナー四〇五号

現代の法学の展開と課題（シンポジウム）

法律時報六〇卷一一号

商法学イン・パースペクティブ

法律時報六〇卷一一号・『株式会社監査機構のあり方』所収

取締役・会社間の手形行為（手形判例の基礎第六講）

法学セミナー四〇六号

一部保険における保険者の請求権代位の範囲〔判批〕

判例評論三五七号〔判例時報二二八五号〕

普通保険約款の現代的機能（金融商事の目）

金融・商事判例八〇三号

白地手形その一（手形判例の基礎第七講）

法学セミナー四〇七号

会計調査人等会社法改正の諸問題と展望

税経通信四三卷一三三号・『会社法改正の論理』所収

金融先物取引所

金融・商事判例八〇六号

商品外務員の行為と使用者責任〔判批〕

別冊ジュリスト100 新証券・商品取引判例百選

白地手形その二（手形判例の基礎第八講）

法学セミナー四〇八号

昭和六四年・平成元年

商法における判例と学説

法学教室一〇〇号

手形の譲渡方法（手形判例の基礎第九講）

法学セミナー四〇九号

監査人・会計監査人

継続性の原則の法規範性

会計方針の変更が「相当でないこと」と違法性との関

係 『論点会社法』（中村一彦・西島梅治編）同文館

裏書の連続その一（手形判例の基礎第一〇講）

法学セミナー四一〇号

保険と保障（金融商事の目） 金融・商事判例八一〇号

裏書の連続その二（手形判例の基礎第十一講）

法学セミナー四一一号

会計調査人制度の可能性

企業会計四一卷三号・『会社法改正の論理』所収

公的責任保険と私的責任保険——故意の事故招致をめ

ぐって——

法曹時報四一卷三号

保険監督法の問題——昭和六三年度日本保険学会シン

ポジウム・解題——

保険学雑誌五二四号

為替手形、約束手形および小切手の異同（演習商法）

法学教室一〇三号

善意取得（手形判例の基礎第二二講）

法学セミナー四一二号

悪意の抗弁（手形判例の基礎第一三講）

法学セミナー四一三号

手形理論——交付の欠缺（演習商法） 法学教室一〇四号

保険の種類と保険契約

損害保険と生命保険

『保険（生活の法律相談シリーズ）改訂版』（編著）

法学書院

後者の抗弁（手形判例の基礎第一四講）

法学セミナー四一四号

手形行為における意思表示の瑕疵（演習商法）

法学教室一〇五号

保険金受取人の変更

文研論集八七号

保険法の立場から（製造物責任をめぐる現代的課題）

民事紛争処理研究基金報四号

商法判例の動き

未必の故意による保険事故招致〔判批〕

ジュリスト九三五号（昭和六三年度重要判例解説）

隠れた取立委任裏書（手形判例の基礎第一五講）

法学セミナー四一五号

偽造による手形行為の効果（演習商法）

法学教室一〇六号

期限後裏書（手形判例の基礎第一六講）

法学セミナー四一六号

取締役・会社間の手形行為（演習商法）

法学教室一〇七号

保険契約者の重過失による告知義務違反〔判批〕

法学研究六二巻八号〔商判V〕

保険判例の増加 ほうむ（安田火災法務部）二四号

手形保証（手形判例の基礎第一七講）

法学セミナー四一七号

白地手形の成立（演習商法）

法学教室一〇八号

支払呈示の効力（手形判例の基礎第一八講）

法学セミナー四一八号

發起人の権限（演習商法）

法学教室一〇九号

小会社における計算と公開

企業会計四一卷一〇号

第三者割当増資と株主の権利

旬刊経理情報五六六号

資本と株式（演習商法）

法学教室一一〇号

企業買収——その法文化と問題点——

法学セミナー四二〇号

顧問弁護士の監査役選任と就任

商事法務一二〇三号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

株券発行前の記名株式の譲渡（演習商法）

法学教室一一一号

平成二年

共同運行供用者でありともに自賠責契約の被保険者である夫婦のうち、妻が子を被保険自動車に同乗させて無理心中し、夫が子の賠償請求権を相続した場合

において、夫の自賠法一六条一項に基づく請求が許されないとされた事例〔判批〕

判例評論三七二号 (判例時報一三二七号)

議決権代理行使資格の制限 (演習商法)

法学教室一一二号

取締役・使用人の監査役選任

産業経理四九巻四号

相互会社問題を中心に生保経営を語る〔特別対談〕

インシユアランス (生保版) 新年特集号 '90

保険法からみた製造物責任の諸問題 (下) (講演)

NBL 四四一号・四四二号

自己株式の取得 (演習商法)

法学教室一一三号

教職課程センターの理念と免許法改正

慶應義塾大学教職課程センター年報四号

自動車保険委員長時代の回顧と今後の展望 (研究会)

日交研シリーズ B・35 日本交通政策研究会

取締役と監査役の兼任 (演習商法)

法学教室一一四号

人・商人・企業 (講演)

専修法学論集五一号・『煉瓦の塔から』所収

手形と貨物引換証との差異 (演習商法)

法学教室一一五号

会計士・監査人の法的責任

税経セミナー三五巻五号・『株式会社監査機構のあり方』所収

商法等改正案要綱案の解説

税経通信四五巻四号

手形行為の解釈——金額の重複記載 (演習商法)

法学教室一一六号

設立手続の合理化

税経通信四五巻六号

株式・持分および会社の資金調達の改正案と問題点

〔座談会・司会〕

税経通信四五巻六号

商法改正 (案) と中小企業——最低資本金制度などに

ついて——

中小企業金融公庫月報三七巻五号

利得償還請求権と原因債権との関係 (判批)

別冊ジュリスト 108 手形小切手判例百選 (第四版)

損害保険事業の発展と保険法 (下)

損保企画二二五号・二二六号

代理人の権限濫用による手形行為 (演習商法)

法学教室一一七号

今次商法の改正について (講演)

月刊監査役二七五号

商法等改正法律案の検討 (一) (二) (座談会)

旬刊経理情報五八九号・五九〇号

商法判例の動き

労災保険金給付と損害賠償額の算定 (判批)

ジュリスト九一〇号（平成元年度重要判例解説）
表見代理における第三者の範囲（演習商法）

法学教室一一八号

株式・持分（改正商法の解説）

商事法務一二二二号

白地手形上の権利と時効（演習商法）

法学教室一一九号

改正商法の内容と実務への対応（一）～（四）（座談会）

税経通信四五卷一一号・一二号・一四号・一五号

裏書不連続手形の呈示（演習商法）

法学教室一二〇号

営業譲渡（演習商法）

法学教室一二二号

手形法——その地位と特色

法学教室一二二号

総会決議の瑕疵（演習商法）

法学教室一二二号

取締役の競業取引（演習商法）

法学教室一二三三三

平成三年

会社法の改正

法学教室一二四号

株式配当（演習商法）

法学教室一二四号

改正商法「資金調達の便宜に資するための改正」をめぐって（座談会）

日経広告手帳一九九一年一月臨時増刊号

自動車保険の被保険者が事故の被害者からの訴提起の事実の通知を怠った場合における保険者の保険金支払義務（判批）

法学研究六四卷二号（商判V）

利益供与の禁止（演習商法）

法学教室一二五号

火災保険の目的物譲渡があつたが保険会社への通知承認手續がない間に生じた事故について保険金支払の免責を定めた約款の効力（判批）

判例評論三八五号（判例時報一三七〇号）

取締役の説明義務（演習商法）

民法五六条～六一一条

二九三条の三の二～二九三条の三の六

三七五条～三八〇条

別冊法学セミナー102・103・104

基本法コンメンタール

会社法1・2・3（第四版）

計算

『会社法』新版（青林双書）（酒巻俊雄・志村治美編）

一人会社設立の法認の意義

企業会計四三巻五号

商法判例の動き

保証のための手形裏書と原因債務の保証の成否（判批）

ジュリスト九八〇号（平成二年度重要判例解説）

社外重役と日米会社法の相違（談・論）

旬刊経理情報六二七号

額面株式と無額面株式

『基本問題セミナー』会社法（新版）（酒巻俊雄・柿崎

栄治編) 一粒社

監査人に対する社会的期待とその責任

月刊監査役二九一号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

監査基準の純化

企業会計四三巻八号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

白地小切手の補充権の消滅時効完成後になされた補充

の効力〔判批〕

金融・商事判例八七一号

有価証券法重点ゼミ——倉澤先生に聞く——

受験新報四一卷九号

保険料領収前に生じた事故

金融・商事判例別冊三号『自動車保険の法律問題』

平成四年

保険法学と保険経営

『保険経営学』(庭田範秋編) 有斐閣

株式会社の不祥事と監査役・会計監査人の機能

商事法務一二七二号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

解約返戻金請求権の法的性質と差押え

ほうむ(安田火災法務部) 三一号

会社の取締役等に対する損害賠償請求権の査定

金融・商事判例八八五号

搭乗者傷害保険の保険金と損害賠償額〔判批〕

法律時報別冊私法判例リマックス四号

監査基準・準則の改訂をめぐる〔座談会〕

税経通信四七巻四号

公認会計士監査の社会的定着

企業会計四四巻三号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

弁護士である監査役の訴訟代理の可否〔判批〕

別冊ジュリスト116 会社判例百選(第五版)

株式とは何か、それはどのようにして譲渡されるか

『テキストブック会社法』第三版(酒巻俊雄・柿崎栄

治・戸塚登・堀口亘・田村諄之輔の各氏と共著) 有斐

閣

経営者責任——川治プリンスホテル火災の判決確定に

際して 予防時報一六九号

自賠責保険における医療費適正化をめぐる諸問題〔座

談会〕 日交研シリーズB・39 日本交通政策研究会

会計監査人監査の機能と新基準・準則

JICPA ジャーナル四巻六号・『株式会社監査機構

のあり方』所収

商法判例の動き

ジュリスト一〇〇二号（平成三年度重要判例解説）

監査役と取締役会（日本私法学会商法部会シンポジウム資料）

商事法務一

二九六号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

傷害保険契約における解約返戻金請求権の差押えと差

押債権者による解約〔判批〕

法学研究六五卷八号〔商判V〕

搭乗者傷害保険金と損害賠償

『鈴木辰紀教授還暦記念・保険の現代的課題』（共編

著）成文堂

意見書

帳簿閲覧・謄写権の強化

生命保険協会保険法規専門委員会委員長宛
税経通信四七卷一三号

平成五年

手形債権の確定と原因債権の時効

手形研究四七五号

新株発行の差止原因と無効原因

法学教室一四八号

保険契約解約返戻金請求権の法的性質とその差押え

法学研究六六卷一号

監査役監査と制度上の諸問題をめぐって〔シンポジウム資料〕

一ム・司会）

監査役制度強化の方向〔講演〕

月刊監査役三一二号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

監査役制度改正の必要性

商事法務一三一一号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

故意免責条項と未必の故意〔判批〕

信用保険契約における填補すべき損害〔判批〕

別冊ジュリスト121 商法（保険・海商）判例百選（第

二版）

総則『商法キーワード』（奥島孝康氏と共編著）有斐閣

為替手形

小切手

手形・小切手に共通する制度

『手形・小切手の法律入門〔新版〕』（田村諄之輔・前

田重行・大塚龍児の各氏と共著）有斐閣

株式会社監査制度の現状と課題〔シンポジウム〕

私法五五号

保険募集の取締に関する法律九条・一〇条

『保険募集の取締に関する法律コンメンタール』（鴻

常夫監修) 安田火災記念財団

商法等改正案要綱の解説

税経通信四八巻五号

外国人被害者と自賠償保険の取扱い(座談会)

ジュリスト一〇二四号(平成四年度重要判例解説)
日米構造協議と会社立法——日米の企業文化ギャップ——

道経研シリーズ A・46『外国人被害者と自賠償保険の
取扱い——主として、不法就労外国人をめぐって——』道

生損保兼営問題への法的視点

法律時報六五巻七号

路経済研究所

損害保険事業の法制

『庭田範秋教授退任記念論文集・生活保障の経済学と
社会学』慶應通信

責任保険における被害者の直接請求権

『損害保険概論』(木村栄一・高木秀卓編) 有斐閣

ジュリスト増刊 商法の争点Ⅱ

生損保兼営問題への法的視点

三田商学研究三六巻一号

手形能力

企業会計四五巻七号

意思表示の瑕疵

他人による振出

取締役・会社間の取引と手形振出

振出人の責任

『手形小切手法』(蓮井良憲・酒巻俊雄編) 青林書院

わが国の監査制度と今後の課題

自動車保険における分割保険料の払込懈怠と保険者の
保険金支払義務〔判批〕

信用金庫四七巻六号・『株式会社監査機構のあり方』

判例評論四一四号(判例時報一四五八号)

所収

公開会社の自己株式取得規制緩和

監査役制度の改正

ジュリスト一〇二九号

企業会計四五巻六号・『株式会社監査機構のあり方』

『改正商法とその対策——株主代表訴訟制度とその実

所収

務上の対応——』(講演)

三井海上火災保険

保険金請求権の消滅時効の起算点〔判批〕

法学教室一六〇号

法学研究六六卷八号〔商判Ⅴ〕

裏書の不連続
傷害保険契約の構造再考——高松高裁平成二年九月二

共同代表取締役と表見代理

八日判決を契機として——

白地手形

別冊法学セミナー120・121 司法試験シリーズ商法Ⅰ・

『損害保険事業総合研究所・創立六十周年記念損害保

Ⅱ〔第三版〕

險論集』
商法判例の動き

商法改正と監査機能の強化

ジュリスト一〇四六号（平成五年度重要判例解説）

税経セミナー三八卷一四号・『株式会社監査機構のあ

計算 『会社法』（酒巻俊雄・志村治美編）青林書院

り方〕所収

利益消却のための自己株式の取得 企業会計四六卷六号

株主代表訴訟と監査役（談・論）旬刊経理情報七〇五号

利益による株式消却のための自己株取得と実務問題

平成五年の商法改正に対応する監査役監査実務の課題

税経通信四九卷七号

——そのギャップと問題点は何か——〔講演〕

製造物責任（PL）をめぐる最近の動向について〔研

保険法からみた製造物責任の諸問題〔講演〕

究会〕 日交研シリーズB・45日本交通政策研究会

『企業活動と紛争——基金設立記念講演集』財団法人

企業資本のリストラのために——平成六年商法改正法

民事紛争処理研究基金

案の概要—— フォト四一巻一四号

商品取引所法八条違反の先物取引の効力〔判批〕

第三者相互間における商法二二条適用の有無〔判批〕

委託証拠金充用証券の返還不能の場合における現物の

別冊ジュリスト129 商法（総則・商行為）判例百選

返還請求〔判批〕

（第三版）

自己株式取得規制緩和と問題点

自己株式取得規制緩和と問題点 税経通信四九卷一二号

『商品取引判例体系』商事法務研究会

譲渡担保と被保険利益〔判批〕

平成六年

法学研究六七卷九号〔商判Ⅵ〕

商法五六条～六一條

二九三条の三の二～二九三条の三の六

三七五條～三八〇條

別冊法学セミナー 132・133・134 基本法コンメンタール
会社法 1・2・3 (第五版)

平成七年

株式とは何か、それはどのようにして譲渡されるか

『テキストブック会社法』第四版 (酒巻俊雄・柿崎榮治・戸塚登・堀口亘・田村諄之輔の各氏と共著) 有斐閣

期待される監査役監査の強化とは何か (シンポジウム)

月刊監査研究二一巻四号

「修正発行説」の意義と機能

『田中誠二先生追悼論文集・企業の社会的役割と商事法』

木内教授の手形法学——解題に代えて—— (インタビュー)

『木内宜彦著・手形抗弁の理論』の菓
PL法の落とし穴 (座談会)

今月の焦点 (三和総研) 九巻六号

自動車保険における分割保険料の履行遅滞と保険者の

責任 (判批)

法学研究六八巻八号 (商判Ⅶ)

製造物責任法の意義と背景 (時の話題)

三田評論九七三号

平成八年

生命保険の意義と種類

金融・商事判例九八六号『生命保険の法律問題』(責任編集)

手形法、小切手法——企業の利器、そして、時には凶器
アエラムック『法律学がわかる』

法と人間——私の商法学—— (講演) 三色旗五七六号

持株会社の法的受け皿 (巻頭言) 税経通信五一巻四号

問われる公認会計士の役割 (座談会)

税経通信五一巻四号

持株会社解禁と商法

旬刊経理情報七八三号

「第三分野」の保険と新保険業法 法曹時報四八巻五号

会社役員賠償責任保険と免責条項

証券代行ニュース二五四号

会社合併の問題点

税経セミナー四一巻一一号

会社の基本原則、株式会社の設立 (一九項目)

『判例ハンドブック (商法総則・会社法)』 (奥島孝康氏と共編著) 日本評論社

法における近代と現代 (講演)

三田教育会報一七号

昭和二五年商法改正——監査制度を中心として——

『岩崎稜教授追悼論文集・昭和商法学史』・『株式会社

監査機構のあり方』所収

日本商法上における監査役

韓日法学研究一五輯

平成九年

金融システム改革と保険業——保険審議会報告書につ

いて——

金融六〇五号

金融システム改革の実相〔インタビュ〕

金融財政事情四八巻二七号

社外取締役と社外監査役——あるべき会社の機関構造

——〔座談会〕

月刊監査役三八七号

商法改正要綱の概要と問題点

税経弘報四五巻五号

新しい合併手続

ジュリスト一一一六号

保険業法改正の意義と新法の特徴——平成八年度日本

保険学会大会共通論題「新保険業法の論点」解題

—— 保険学雑誌五五六号

保険審議会報告——保険業の在り方の見直しについて

——〔講演〕

損保事業総合研究所

手形行為の要件、手形行為の代理（二二項目）

『判例ハンドブック「商行為法・手形法」』（奥島孝康

氏と共編著）日本評論社

株主代表訴訟提起の手續〔判批〕

法学研究七〇巻一一号〔商判Ⅷ〕

株式会社法改正と理論の役割 法学セミナー五一六号

企業行動と企業倫理

税経通信五二巻一六号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

平成一〇年

企業活動とリーガルマインド〔座談会〕

ビジネス実務法務一卷一号

損害保険の料率自由化は時代の流れだった〔インタビ

ュ〕

週刊東洋経済五四七三号

人間ドラマから手形法入門パート2〔コメンテータ

ー〕

法学セミナー五一九号

株式とは何か、それはどのようにして譲渡されるか

『テキストブック会社法』第五版（酒巻俊雄・柿崎栄

治・戸塚登・堀口亘・田村諄之輔の各氏と共著）有斐

閣

『違法経営』が真に意味するもの（談・論）

旬刊経理情報八六一号・『株式会社監査機構のあり方』

所収

商法五六条～六一条

二九三条の三の二、二九三条の三の六

三七五条、三八〇条

別冊法学セミナー 157・158・159 基本法コンメンタール
会社法 1・2・3 (第六版)

いくつかの疑問 (日本私法学会シンポジウム「生命保

険契約法の改正」)

商事法務一五〇一号

支払保証制度について (講演)

文研論集一二四号

ビジネス実務法務の構造 ビジネス実務法務一卷二二

株式会社化への現実的な方策を求めよ

金融ジャーナル三九巻五号

金融ビッグバンと自己責任 (講演)

J C F A 九号

自賠責保険の構造 (講演)

日交研ニューズ八九号

平成一一年

企業会計制度の回顧と展望 (座談会)

企業会計五一巻二二

企業再編をめぐる商法改正の動向 (講演)

T H I N K 会報 (司法書士論叢) 九四号

自賠責保険の構造

高速道路と自動車四二巻三三

保険契約者保護機構の発足について (講演)

共済と保険九九年四月号

青木徹二 (商法一〇〇年の肖像) ジュリスト一一五五号

商法における近代と現代

法律時報七一卷七号

平成一二年

一〇〇年目を迎えた監査役制度と二一世紀への展望

(対談)

月刊監査役四二三号

反應・横槍法人論

法学研究七三巻二二

会社分割法制の論点

企業会計五二巻七号

株式交換・移転に対する法規制

ビジネス実務法務三巻四号

執行役員制度と監査役

月刊監査役四二六号

商法改正の方向と課題

税経通信五五巻一一号

代表取締役制度の半世紀

法学研究七三巻一二号

手形小切手行為の代理・代行

『現代手形法小切手法講座第二巻』(共編著) 成文堂

生命保険契約の解約返戻金請求権の差押えと解約権行

使の可否 (判批)

私法判例リマックス二二

平成一三年

ペーパーレス下における株式譲渡の問題点

税経通信五六巻一〇号

商法五六条、六一

三七五条、三八〇

別冊法学セミナー 170・172 基本法コンメンタール会社

法1・3（第七版）

最近の商法改正の概要と今後の動向

市民と法七号

自賠責保険の改革〔研究会〕

日交研シリーズB・84日本交通政策研究会

平成一四年

半世紀ぶり会社法改正の方向〔講演〕

JCF A一七号

平成一三年商法改正の要点とその意義

市民と法一三号

株式会社法の統治制度〔講演〕

JCF A二二号

生命保険の意義と種類

金融・商事判例一一三五号 新版生命保険の法律問題

〔責任編集〕

自賠責保険・共済紛争処理機構 倉澤康一郎理事長に

聞く〔インタビュー〕 週間自動車保険新聞一二月四日

平成一五年

平成一四年商法改正の要点とその意義——新たな経営

機構導入の意義を主点として 市民と法一九号

平成一六年

〔会社の種類〕——会社法根本改正の方向——〔講演〕

JCF A二五号

〔会社法制の現代化〕の意義

市民と法二五号

平成一七年

消費者と自己責任——契約法の現代的意義——〔講演〕

演〕

JCF A二七号

平成一九年

金融商品取引の契約法理——保険金不払騒動を他山の

石として〔講演〕

JCF A三九号

平成二一年

〔金融商品取引法〕の特質〔講演〕

JCF A四三号

〔法概念〕のための、「概念法学」との闘い——三田法

学の道——〔講演〕

慶應法学一一号

四 随筆、座談会、インタビューなど

昭和三九年

サマー・セミナー感想

法学会誌四〇号

法学部の教師より通教生への手紙

三色旗一九五号・『煉瓦の塔から』所収

昭和四〇年

ノー・アイディア

三田評論六四三号・『煉瓦の塔から』所収

昭和四一年

大学と学生運動〔座談会〕

三田評論六四九号

昭和四二年

感情的教育論 三色旗二二七号・『煉瓦の塔から』所収
商法の専門書(書棚) 三色旗二三五号

昭和四五年

通信教育の「これから」〔座談会〕 慶應塾生新聞一六号
研究会と私

慶應義塾大学報二八号・『煉瓦の塔から』所収
調和のための対立

三色旗二七一号・『煉瓦の塔から』所収
昭和四六年

補助教材を語る〔座談会〕 三田評論二七四号
卒業論文の作成について〔座談会〕 三色旗二八一号

法学の学び方 三色旗二八三号・『煉瓦の塔から』所収
昭和四七年

地方行事における講師派遣の問題〔座談会〕 三色旗二九四号

昭和四八年
青木徹二「商法全書(全五編)」(塾の古典) 三色旗二九八号

「若すぎる」感じを与えない法学者——阪埜光男教授
のこと——(新常任理事の横顔) 三田評論七二九号

昭和四九年

論理の「とらわれびと」〔インタビュー〕

卒業試験問近 慶應塾生新聞五四号

慶應義塾大学報五四号・『煉瓦の塔から』所収
昭和五〇年

人間にとって文学とは何か〔座談会〕 三色旗三二四号
商法とは何か 三色旗三二八号

監査役と取締役会(研究余滴) 三田評論七五一号
新しい保険法学の課題と展望〔インタビュー〕

『西島梅治著・保険法』の栞
昭和五一年

卒業試験について〔座談会〕 三色旗三三五号
ライトブルッフ「心の旅路」(二冊の本)

法学セミナー増刊 法学入門一九七六年・『煉瓦の塔から』所収

ミクロネシア連邦憲法草案〔翻訳への協力〕
委任状のはなし ミクロネシア情報一一号

慶應義塾大学報七二号・『煉瓦の塔から』所収
昭和五二年

わが法学部を語る

法学セミナー増刊 法学入門一九七七年・『煉瓦の塔から』所収

「シャレ」の構造

ジュリスト六五二号・『煉瓦の塔から』所収

昭和五三年

島谷英郎先生のこと（故人回想）

三田評論七七八号・『煉瓦の塔から』所収

一枚のハガキ

『吉田山・大森先生の思い出』大森忠夫先生追想文集
刊行会・『煉瓦の塔から』所収

昭和五五年

コース（志望）別法学オリエンテーション・経営法コース

法学セミナー増刊 法学入門一九八〇年（一九八二年版まで掲載）

四月のシラノ

慶應義塾大学報一五卷一号・『煉瓦の塔から』所収
面接の思い出——「つくられた正直を排せ」

『81慶大入試のために』慶應義塾新聞・『煉瓦の塔から』所収

新学生部長の栗林忠男君

塾一〇三号

昭和五六年

私とアルコール

昭和五七年

無趣味の趣味

昭和五八年

法学部NOW君たちが学ぶ法学とは（座談会）

法学セミナー増刊 法学入門一九八三年

鶏肋

慶應義塾大学報一四〇号・一四二号・一四四号・『煉瓦の塔から』所収

ディスクロージャー（講義覚え書）

塾一一九号・『煉瓦の塔から』所収

昭和五九年

煉瓦の塔から（一二回連載）

会計人コース一九卷一号～一五号・『煉瓦の塔から』所収

・私の研究室

・花を愛するということ

・ふるさと

・法律のつめたさとあたたかさ

・電話

・旅と読書

・道

・船出

・歌

・裁き

・味

・勇気・別れ

雪おろし

『遊——三十九人の男たち』(鈴木玲子編) 平凡社・

『煉瓦の塔から』所収

学生と酒 ジュリスト八一七号・『煉瓦の塔から』所収

就職——凡俗の生きざま

法学セミナー三五六号・『煉瓦の塔から』所収

昭和六〇年

義塾賞・高島正夫君「慶應義塾創立百二十五年記念論

文集」〔紹介〕

慶應義塾大学報一五九号

前田庸著「有価証券法人門」〔書評〕

法学セミナー三七〇号

「現代保険法論」(新著余瀝)

三田評論八六一号

あのころ・このころ

蒼友一号(倉澤会)

昭和六一年

「法と法学」(新著余瀝)

三田評論八七二号

消費者の復権と現代企業法(私の視点)

三色旗四四七号・『煉瓦の塔から』所収

会社の呼び方(百科問答)

月刊百科二八五号

勝負師 法学セミナー三八一号・『煉瓦の塔から』所収

北沢正啓著「会社法改正試案等解説」〔書評〕

税経通信四一巻一一号

パリ再訪

蒼友二号(倉澤会)

昭和六二年

日本人の「国際化」

旬刊金融法務事情一七五五号・『煉瓦の塔から』所収

一つの別れ・もう一つの別れ

蒼友三号(倉澤会)

昭和六三年

「目かくし」の孤独

慶應義塾大学報一九一号・『煉瓦の塔から』所収

教育は人なり「インタビュー」

三田評論八九〇号

ミラボー橋へ

『日本の青春』(鈴木玲子編) 平凡社・『煉瓦の塔から』所収

木内宜彦君を悼む

法学通信 Hi-Law-Yet 三七号(辰巳法律研究所)・

『煉瓦の塔から』所収

夏の終り

蒼友四号（倉澤会）

昭和六四年・平成元年

クイズに非ず——法概念の相対性——

不動産法律セミナー二〇巻九号・『煉瓦の塔から』所収

収

管見・故鍵谷幸信君

教養論叢八二号（慶應義塾大学法学研究会）・『煉瓦の塔から』所収

青春の遺愛——私の本棚

夏から秋へ

塾一五七号・『煉瓦の塔から』所収

MとAの違い

蒼友五号（倉澤会）

平成二年

旬刊速報税理二七八号・『煉瓦の塔から』所収

楽しい手形法

受験新報一〇巻一〇号・『煉瓦の塔から』所収

平出慶道著「手形法小切手法」〔書評〕

法学教室二二二号

新と旧

蒼友六号（倉澤会）

平成三年

器械体操部早慶戦に勝利して

シベリアの青山^{サイザン}

蒼友七号（倉澤会）

平成四年

『煉瓦の塔から』（新著余瀝）

三田評論九三三三

情報化と沈丁花

慶應義塾大学研究・教育情報センターKULIC二六号

号

「ウチイケさん」と「わが友ウチイケ」

流石（内池研究会・みなと会）特別号

図書館長室

蒼友八号（倉澤会）

わが青春のカルバドス

慶應通信五三七号

平成五年

壁と情報

医学情報誌あいまつく一三巻四号

教職課程センターを語る〔座談会〕

慶應義塾大学教職課程センター年報六号

国際派江戸っ子——栗林忠男君（新常任理事の横顔）

三田評論九五〇号

株主代表訴訟って何？

日本経済新聞平成五年一〇月九日夕刊

社会を見える眼〔学部紹介〕 慶應義塾大学1994

新しいメガネ

蒼友九号（倉澤会）

「論文」を書く

塾一八一号

惚れた強み——新メディアネット所長(図書館長)内

池慶四郎君

塾一八二号

多情多感な万年青年——内池慶四郎君(紹介)

青春は遠し——一枚のレコード

三田評論九五三号

序(阪埜光男教授退職記念論文集)

法学研究六六卷一二号

平成六年

変革期に生きる者の使命

別冊旬刊経理情報 改正商法による監査役の実務のすべて

法学部長に聞く(インタビュー)

三色旗五五二号

テミス考

てみす(三田法曹会) 三号

大学生の社会的責任

塾三二卷二号

奥島孝康著「会社法の基礎」(書評)

法学セミナー三九卷七号

倉澤康一郎学部長に聞く(学部紹介)

慶應キャンパス三二七号

年まわり

蒼友一〇号(倉澤会)

社会を見する眼(学部紹介)

慶應義塾大学1995

序(山田直先生退職記念論文集)

教養論叢九五号(慶應義塾大学法学研究会)

序(小名木栄三郎先生退職記念論文集)

教養論叢九六号(慶應義塾大学法学研究会)

序(内山秀夫教授退職記念論文集)

法学研究六七卷一二号

序

法学研究二五号(慶應義塾大学法学部法律学科ゼミ

ナール委員会)

平成七年

序(中村勝範教授退職記念論文集)

法学研究六八卷一号

序(太田俊太郎教授退職記念論文集)

法学研究六八卷二号

頭の中を広く

塾風一五号

「会社法改正の論理」(新著紹介)

三色旗五六七号

大学における卒業論文の意義

『卒業論文の手引(新版)』慶應義塾大学通信教育部

論述力(小論文) 試験(インタビュー)

高2講座エンカレッジ小論文一九九号

メディア——人と人をつなぐもの

MEDIA NET 一号

序 教養論叢一〇〇号（慶應義塾大学法学研究会）

序 法律学研究二六号（慶應義塾大学法学部法律学科ゼミナール委員会）

解放の秋 蒼友二一号（倉澤会）

平成八年

法学（憲法を含む）の学び方

人間ドラマから手形法入門（コメンテーター）『学習のすすめ』慶應義塾大学通信教育部

法学セミナー五〇四号

わが「失われた時」

蒼友一二号（倉澤会）

はしがき

『岩崎稜教授追悼論文集・昭和商法学史』（共著編）

日本評論社

平成一〇年

自由な個性と愛塾心

三田評論一〇〇〇号

平成一一年

『人間ドラマから手形法入門』（奥島孝康・高田晴仁編）（コメンテーター）日本評論社

合理主義者のやさしさ（津田利治先生追悼記事）

法学研究七二巻六号

はしがき 『木内宜彦著・手形判例の理論』新青出版

平成一二年

追憶・高島正夫先生 三田評論一〇二二号

詩人的優しさの所似（高島正夫先生追悼記事）

法学研究七三巻六号

平成一三年

廃墟の中の「海洋研究会」 海洋研究会五〇周年記念誌

平成一五年

序

津田利治著『会社法以前』（慶應義塾大学商法研究会編）

平成二〇年・二二年

寸描 三田評論一一一号・一二七号

追想・内山秀夫君（内山秀夫先生追悼記事）

法学研究八二巻三号

〈付記〉

一 倉澤先生の著作については、先生の遺稿、ご退職、古稀の折りに刊行された論文集の末尾に各々「主要著作目録」を掲載したものの、いずれも紙面の都合などの理由によって、判例評釈、座談会、随筆等々を大幅に割愛せざるをえ

ず、また、一部には過誤や見落としもあった。そこでこの度は編集委員会のお許しのもとに網羅的な著作リストを掲載していただくこととした。

二 底本としては、倉澤先生ご自身の手になる『著作目録Ⅰ』および『同Ⅱ』と題するメモ（いずれも大学ノートに自筆したもの）を使用し、各種データベースおよび原著作を参照して、右のメモからの一部の著作の脱落を補った。

三 倉澤先生の著作はいずれも発表の形式（論説、判例評釈、解説、書評、巻頭言、等々）を問わず、いずれも深い思索の内容をきわめて切りつめた形で執筆されたものである。したがって通例のように、著作を発表形式ごとに区分することには意味がないどころか、かえって、先生ならではのシャープな卓見が短い形で示された著作が見逃されてしまう虞れがある。そこで、単行書としてまとまっているもの、および、上記の自筆メモで随筆として一括されているもののほかは、すべての著作を一括して年代順に配列することとした。

四 とくに、倉澤先生は、判例は「人間の血の流れる実験」であるとの考えにもとづいて、一貫して判例評釈に全力を傾けられ、判例が提起した問題を契機に論文を執筆されることが多いことから、通常のように論説と判例評釈（判

例解説）を区別することはなかった。

なお、倉澤先生が「法学研究」に発表された「下級審商事判例評釈」は、慶應義塾大学商法研究会の編集による『下級審商事判例評釈（昭和三〇年—三九年）』（商判Ⅰ）、『同（昭和四〇年—四四年）』（商判Ⅱ）、『同（昭和四五年—四九年）』（商判Ⅲ）、『同（昭和五〇年—五四年）』（商判Ⅳ）、『同（昭和五五年—五九年）』（商判Ⅴ）、『同（昭和六〇年—六三年）』（商判Ⅵ）、『同（平成元年—五年）』（商判Ⅶ）に収録されており、該当するものについては（商判Ⅰ）などと付記した。

五 共著や分担執筆の場合は、できるかぎり具体的な執筆項目を掲げて検索の便宜をはかった。ただし遺憾ながら辞典類などにはご担当の執筆項目が不明なものがある。

六 また、先生の学生時代に新聞「デイリー・スポーツ」の懸賞（昭和三二年）に当選して同紙に掲載された小説「東京挽歌」、同じく河出書房の雑誌「知性」に投稿された詩（昭和三〇年七月号、三一年一月号、二月号、四月号、六月号、十一月号、三二年三月号）があることを付記しておく。

七 ここに貴重な情報をお寄せ下さった各位に感謝申し上げますとともに、誤りや見落としについては是非ご教示を賜りたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。（高田晴仁）